

基礎目標	風土に根ざした産業をつくる	第1四半期
------	---------------	-------

区分	成果指標・KPI	単位	基準値	年度目標値	現在実績値	対前年同期
成果指標	町内総生産	億円	538(H29)	549(R1)	535(H30)	▲3
政策1	①mashipo カード会員数（町内）	人	720	15,600	15,055	—
	②誘致企業数	—	0	0	0	—
	有効求人倍率	—	0.77	0.60	0.64(1-5)	▲0.05
	③起業支援補助金利用件数（累計）	件	26	30	29	+3
政策2	④益子焼総販売額	億円	23(R1)	23(R1)	23(R1)	—
	①新規就農者数（累計）	人	28	33	32	+4
	②「食の学校」（仮）新商品数（累計）	—	未実施	0	0	—
政策3	③市町村別農業産出額	億円	34	35.3(R2)	32.2(R1)	▲2.2
	①観光客入込数	万人	291	200	—	—
	観光客宿泊者数	人	47,550	30,000	—	—
	②mashipo カード会員数（町外）	人	900	7,800	7,109	—
	ツアー参加者数（累計）	人	未実施	120	—	—

実施内容・成果の総括	次期四半期以降への方針
<p>1 ①各種キャンペーンを継続的に実施してきており、mashipo カード町内会員数は15,055人(令和2年度対比+120人)、加盟店は70店となった。</p> <p>②金融機関及びゼネコン等事業者と、最近の企業動向等について意見交換をし、他自治体の誘致状況について情報収集を行った。また、5月現在の有効求人倍率は0.64(令和2年度同月対比▲0.05)となった。</p> <p>③起業支援補助金利用件数は累計29件、制度融資申込は9件となった。</p> <p>④4月29日から5月9日までの11日間、ましこラボの主催でWEB陶器市を開催した。売上高は約40百万円で、一日当たりの売上高は過去最高となり、収支も大幅に向上した。</p> <p>2 ①新規就農者数(累計)は32人となった。新規就農者等支援事業費補助金の改正を行い、農業機械や種子・種苗の購入費も新たに補助の対象にすることで、支援内容を拡充した。</p> <p>②若手農業者で構成される「西洋野菜研究会」において、新規作物の試作支援として県農業振興事務所と連携して現地指導を実施した。また、飲食店へのサンプル提供やアンケートを通じて、飲食店の西洋野菜に対するニーズ把握を行った。</p> <p>③西洋野菜のサンプルを都内のレストランと仲卸業者に提供し、ニーズ調査を実施した。また、町内飲食店アンケートからは、町外産の農産物を使っている現状が把握できた。</p> <p>3 ①5月8日から30日までの週末に益子E市を開催し、8日間で8,750名が来場した。また、5月22日から土祭を、6月12日から益子×セントアグス100年祭を開催している。</p> <p>②mashipo カード町外会員数は、加盟店における新規会員獲得が定着してきており、7,109人(令和2年度対比+646人)となった。ツアー造成事業では、コ消費を推進していく観点から、町内旅行事業者と着地型バスツアーやサイクルツアーの検討を行った。</p>	<p>1 ①町内会員の利便性向上のため、加盟店舗数の増加に引続き取組むとともに、大型店の加盟についても検討していく。</p> <p>②産業団地候補地の土地鑑定評価の結果を踏まえて、事業計画の策定を進めていく。産業団地が整備されるまでの間は、町内適地に企業誘致を進めるとともに、国の地域雇用活性化推進事業採択に向けて引続き取組んでいく。</p> <p>③改修中のチャレンジショップの稼働に向けて、募集要項の整備や備品発注の準備を進めていく。</p> <p>④益子焼の販路拡大の新たな取組として、レストランに器を提案する事業をましこラボ主導で進めていく。県内の代表的なレストランでのスタートを想定しており、併せて町内の供給体制作りも行っていく。</p> <p>2 ①農と食のプロジェクトの一環として「農のワストップ窓口」を構築していく。新規就農者が必要とする農地や施設等の情報を一元管理し、ワストップで提供できる窓口の基礎作りを取組んでいく。</p> <p>②飲食店アンケートの結果、カフェやイタリアンレストランでニーズが高いことが判明した。農産物の流通の構築が今後の課題となることから、関係者との意見交換を通じて、適切な流通の在り方について検討していく。</p> <p>③都内のレストランや仲卸業者の西洋野菜に対するニーズは確認できた。今後は、ビジネスとして展開する上での諸課題の洗い出しを行っていく。また、町内産農産物の地消推進についても検討していく。</p> <p>3 ①コロナ禍で様々な制約はあるものの、安全対策の徹底とルール遵守により開催可能なイベントについては実施をしていく。また、アフターコロナに向けて観光の底上げを図る施策を検討・実施していく。</p> <p>②mashipo カード町外会員数は順調に推移しており、今後はデジタルマーケティングの活用について検討していく。ツアー参加者については、ましこラボ等事業者と連携して、コ消費に繋がるツアー造成を通して、関係人口の増加に取り組んでいく。</p>

基礎目標	風土に根ざした産業をつくる	第2四半期
------	---------------	-------

区分	成果指標・KPI	単位	基準値	年度目標値	現在実績値	対前年同期
成果指標	町内総生産	億円	538(H29)	549(R1)	535(H30)	▲3
政策1	①mashipo カード会員数（町内）	人	720	15,600	15,136	—
	②誘致企業数	—	0	0	0	—
	有効求人倍率	—	0.77	0.60	0.63(1-8)	±0
	③起業支援補助金利用件数（累計）	件	26	30	29	+3
政策2	④益子焼総販売額	億円	23(R1)	23(R1)	23(R1)	—
	①新規就農者数（累計）	人	28	33	35	+6
	②「食の学校」（仮）新商品数（累計）	—	未実施	0	0	—
政策3	③市町村別農業産出額	億円	34	35.3(R2)	32.2(R1)	▲2.2
	①観光客入込数	万人	291	200	—	—
	観光客宿泊者数	人	47,550	30,000	—	—
	②mashipo カード会員数（町外）	人	900	7,800	7,588	—
	ツアー参加者数（累計）	人	未実施	120	—	—

実施内容・成果の総括	次期四半期以降への方針
<p>1 ①各種キャンパ-ンの継続的な実施に取組み、mashipo カ-ド町内会員数は、令和2年度対比201人増加し15,136人となった。</p> <p>②産業団地の整備では土地鑑定評価が完了したことから、事業収支計画の作成へ移行した。併せて既存土地への企業誘致にも取組み、1社から工場新設の意向が示された。また、厚生労働省の「地域雇用活性化推進事業」採択地域に採択された。8月現在の有効求人倍率は0.63となった。</p> <p>③起業支援補助金に関する相談が3件、制度融資の申込が3件あった。</p> <p>④ましこホ-ルが11月に開設予定のふるさと納税お礼品の返礼品に益子焼の登録を推進するため、町内事業者への案内を幅広く行った。</p> <p>2 ①新規就農者に対して、農地の選定・確保から暮らし環境のホ-トまでワンストップで総合的な支援に努めた結果、昨年対比3人増加し35人となった。</p> <p>②西洋野菜を益子ブランドの農産物として普及させていくための取組を行った。飲食店に対しては、ニーズ調査・サンプル配布・圃場視察・新商品開発セミナーを実施した。一方、生産者に対しては、県と連携した技術指導・先進農家視察を実施した。</p> <p>③西洋野菜のサンプルを提供した都内のレストランから購入相談があった。また、町内産パ-ナップとバナナの販路開拓支援を行い、県内百貨店で販売が開始となった。</p> <p>3 ①9月に予定していた「ましこ市」は緊急事態宣言に伴い11月へ延期となった。経済対策としての「益子まるごとクーポン事業」をコロナ終息後に速やかに実施できるよう関係団体と調整を行った。</p> <p>②mashipo カ-ド町外会員数は順調に推移しており、令和2年度対比1,125人増加し7,588人となった。DMOの設立に伴い町内の重複事業の解消を目的に、観光協会と観光パンフレットの見直しに着手した。また、着地型ツアー造成事業では、サイクルツアーとマイクロバスツアーの開催に向けて町内事業者と連携して準備を進めた。</p>	<p>1 ①町内会員の利便性向上のため、加盟店舗数の増加に引続き取組むとともに、大型店の加盟についても引続き検討していく。</p> <p>②産業団地の事業計画では、収支計画を中心に事業の妥当性を検証し、令和4年度に予定している用地取得に向けて取組んでいく。また、「地域雇用活性化推進事業」では、地域雇用創造協議会を再起動させ、雇用創出・就労支援に向けた事業を通じて、有効求人倍率の向上を目指していく。</p> <p>③改修中のチャレンジショップの稼働に向けて、募集要項の整備や備品納品の準備を進めていく。</p> <p>④約30の町内事業者が登録を希望しており、今後も事業者数を増やす取組を継続し、益子焼販売機会の多様化を図っていく。</p> <p>2 ①移住希望者からの就農相談が増えてきていることから、関連部署との連携を強化すると共に、「農のワンストップ窓口」の構築に取り組んでいく。</p> <p>②飲食店と生産者との意見交換や相互交流を通じて、西洋野菜に対する共通理解が醸成されてきており、今後は町内外での認知度向上に取り組むと共に、販路開拓や生産体制の拡充などの課題に対する支援を行っていく。</p> <p>③西洋野菜については、町内飲食店と併せて町外飲食店への販路も開拓していく。また、町内の付加価値の高い農産物を町外へ販売していく取組を継続して行っていく。</p> <p>3 ①「益子まるごとクーポン事業」は対象となる事業者の範囲を拡大すると共に、コロナ終息後に速やかに実施できるよう、関係団体や事業者と連携して進めていく。</p> <p>②引続き町外会員の獲得に取り組むと共に、デジタルマーケティングを活用した事業展開について検討していく。重複事業の見直しについては、関係団体と連携し、観光パンフレット以外の分野でも進めていく。また、サイクルツアーとマイクロバスツアーについては、コロナの状況を踏まえた上で10～11月に合計4回開催していく。</p>

基礎目標	風土に根ざした産業をつくる	第3四半期
------	---------------	-------

区分	成果指標・KPI	単位	基準値	年度目標値	現在実績値	対前年同期
成果指標	町内総生産	億円	538(H29)	549(R1)	535(H30)	▲3
政策1	①mashipo カード会員数（町内）	人	720	15,600	15,217	+2,061
	②誘致企業数	—	0	0	1	+1
	有効求人倍率	—	0.77	0.60	0.69(4-11)	+0.16
	③起業支援補助金利用件数（累計）	件	26	30	31	+4
政策2	④益子焼総販売額	億円	23(R1)	23(R1)	23(R1)	—
	①新規就農者数（累計）	人	28	33	37	+7
	②「食の学校」（仮）新商品数（累計）	—	未実施	0	0	—
政策3	③市町村別農業産出額	億円	34	35.3(R2)	32.2(R1)	▲2.2
	①観光客入込数	万人	291	200	—	—
	観光客宿泊者数	人	47,550	30,000	—	—
	②mashipo カード会員数（町外）	人	900	7,800	8,053	—
	ツアー参加者数（累計）	人	未実施	120	8	—

実施内容・成果の総括	次期四半期以降への方針
<p>1 ①各種キャンペーンの継続的な実施に取り組み、mashipo カード町内会員数は、令和2年度対比282人増加し、15,217人となった。</p> <p>②事業収支予想を踏まえ、産業団地開発基本構想(案)を作成した。既存土地への企業誘致では、森林ノ牧場(株)の益子牧場が12月にオープンした。求職者向けセミナーを6回開催すると共に、厚生労働省から採択を受けた「地域雇用活性化推進事業」では、地域雇用創造協議会を再開させた。また、新たに雇用支援奨励金の交付1件を決定した。</p> <p>③起業支援補助金は2件の交付を決定した。中小企業振興資金に係る信用保証料補助率を1/2から全額に改正し、制度融資の申込は11件となった。また、チャレンジショップの工事が完了し、利用者の公募を行った。</p> <p>④「かさましこ推奨店事業」における町内参加店は60店舗となった。益子焼を主要な返礼品としたふるさと納税特設サイトをましこホが開設した。</p> <p>2 ①遊休農地利用状況調査の結果を受けて、農地の有効利用に資する目的で農地利用意向調査を実施した。</p> <p>②町内の農業者と飲食店の相互理解を促進する目的で情報交換や意見交換を活発に行い、試食会やマルシェの開催等に繋がった。また、飲食店に対して地元の野菜ボックスの試験販売を開始した。</p> <p>③町内産農産物の町外への販路拡大の取組として、都内レストランへの試験販売に取り組んだ。</p> <p>3 ①9月から延期となった「ましこ市」を感染対策を取りながら11月に無事開催することが出来た。飲食店や商店を新たに対象に加えた益子まるごとクーポン事業(第2弾)を11月からスタートさせた。</p> <p>②mashipo カード町外会員数は順調に推移しており、令和2年度対比1,590人増加し8,053人となった。ましこホが土祭メイン期間中に4ツアーを企画したが、バスツアーを中心に3ツアーでは参加者がなく、グリーンサイクルツアーのみ8名の参加となった。</p>	<p>1 ①町内会員の利便性向上のため、加盟店舗数の増加に引続き取組むとともに、スマートフォンを活用した新たなシステム等について研究していく。</p> <p>②産業団地開発基本構想に基づき、今後は用地の取得に向けて取組んでいくと共に、既存土地への企業誘致も継続して進めていく。また、地域雇用創造協議会では、事業計画に基づき1月からセミナーを継続的に開催し、雇用創出と町民の就業を促進することで、有効求人倍率が向上するよう取組んでいく。</p> <p>③起業支援補助金の交付決定先に対して、商工会と連携して伴走支援を行っていく。また、金融機関と連携し、中小企業振興資金を活用した事業者への資金繰り支援を行うと共に、チャレンジショップ利用者を決定し、運営に向けて進めていく。</p> <p>④販売機会の多様化としてましこホが2月にWEB陶器市を開催すると共に、Instagramを利用したフォトコンテストを行い益子焼のPRを図っていく。</p> <p>2 ①農地利用意向調査の結果を取りまとめて遊休農地等の現状把握を行い、新たな担い手とのマッチングに取り組んでいく。</p> <p>②今後も、農業者と飲食店による定期的な試食会などの交流を深めていくと共に、販路拡大に対応できる生産体制を確保し収益の上がる農業を目指すために、種苗会社との連携を図っていく。</p> <p>③町内の付加価値の高い農産物や6次化商品を町外へ販売していく取組を継続して行っていく。</p> <p>3 ①コロナ禍で観光需要を喚起する事業実施が見通せない状況ではあるものの、関係機関と十分に連携を図り、引続きコロナの収束状況を見ながら機動的に事業が実施できるよう取組んでいく。</p> <p>②引続き町外会員の獲得に取り組むと共に、デジタルマーケティングを活用した事業展開について検討していく。コロナ禍ではあったものの、催行出来なかったツアーについて要因を分析し、今後の事業展開に活かしていく。</p>

基礎目標	風土に根ざした産業をつくる	第4四半期
------	---------------	-------

区分	成果指標・KPI	単位	基準値	年度目標値	現在実績値	対前年同期
成果指標	町内総生産	億円	538(H29)	549(R1)	535(H30)	▲3
政策1	①mashipo カード会員数（町内）	人	720	15,600	15,283	+348
	②誘致企業数	—	0	0	2	+2
	有効求人倍率	—	0.77	0.60	0.72(4-2)	+0.16
	③起業支援補助金利用件数（累計）	件	26	30	31	+4
政策2	④益子焼総販売額	億円	23(R1)	23(R1)	23(R1)	—
	①新規就農者数（累計）	人	28	33	37	+5
	②「食の学校」（仮）新商品数（累計）	—	未実施	0	1	+1
政策3	③市町村別農業産出額	億円	34	35.3(R2)	31.4(R2)	▲0.8
	①観光客入込数	万人	291	200	186	+7
	観光客宿泊者数	人	47,550	30,000	26,424	+1,119
	②mashipo カード会員数（町外）	人	900	7,800	8,372	+1,909
	ツアー参加者数（累計）	人	未実施	120	8	—

実施内容・成果の総括	次期四半期以降への方針
<p>1 ①各種キャンペーンの継続的な実施に取組み、mashipo カード町内会員数は、令和2年度対比348人増加し、15,283人となった。</p> <p>②企業誘致では(有)松廼家の本社移転と工場新設が決定した。また、事業収支予想を踏まえ、産業団地開発基本構想を作成すると共に、用地購入費を令和4年度当初予算に計上した。</p> <p>求職者向けにビジネスパソコン講座等のセミナーを6回開催すると共に、地域雇用創造協議会では、子育て世代の女性の再就職支援等新たな切り口でセミナーを5回開催した。</p> <p>③チャレンジショップでは使用者が決定し、3月26日に店舗がオープンした。中小企業振興資金は18件の申込で前年同期対比13件の増加となった。事業者支援策として信用保証料補助率を1/2から全額に改正した後は、取扱件数が増加傾向にある。</p> <p>④「益子焼を使おうフォトテスト」を開催し受賞者を決定したことから、町内外でのPRに向けて益子焼を使おう条例ポスターを作成した。</p> <p>2 ①小泉・本沼地区土地改良事業では、小泉地区の畑地帯の工事に着手した。</p> <p>②町内の生産者と飲食店が連携した新商品開発では、町内産生姜を飲食店が商品化した「生姜の佃煮」が販売開始となった。</p> <p>③町内農産物の町外への販路拡大に取り組んでいるが、令和2年の農業産出額は野菜の減産を主因に、前年対比8千万円減の31億4千万円となった。</p> <p>3 ①経済活性化事業として実施した「益子まるごとクーポン事業」の宿泊クーポンの行使率は98.5%となった。インバウンド需要喚起策として英語版の陶芸体験解説DVDを制作し、訪日外国人向け観光情報サイトにアップすると共に、町内事業所に配布した。</p> <p>②mashipo カード町外会員数は順調に推移しており、令和2年度対比1,909人増加し8,372人となった。</p>	<p>1 ①町内会員の利便性向上のためには加盟店舗数の増加が必須であることから、加盟店舗がメリットを享受できる制度を検討していく。</p> <p>②(有)松廼家の町内移転に伴い、移住・雇用・町内循環型経済の観点から引続き支援していくと共に、産業団地候補地の用地買収に向けた取組に着手し、着実に産業団地の整備を進めていくと共に、既存土地への企業誘致も継続して進めていく。地域雇用創造協議会と連携し求職者向けセミナーの他に雇用者向けセミナーを開催していくことで、有効求人倍率の向上に資するよう取組んでいく。</p> <p>③チャレンジショップ使用者に対しては、商工会と連携し、独立に向けた支援や経営指導を実施していく。また、中小企業振興資金を活用した資金繰り等の事業者支援について、金融機関と連携しながら引続き取組んでいく。</p> <p>④益子焼公式Instagramを開設し、作家・窯元・販売店・行政がそれぞれに発信していた情報を統一したアカウントで発信していく。</p> <p>2 ①里西・星の宮地区土地改良事業では、地元同意率の向上に向けた取組を強化していく。</p> <p>②町内飲食店の加工品開発の技術支援は、飲食店と農業者の双方に非常に有益な事業であることから、今後も積極的に支援を継続していく。</p> <p>③野菜の減産は全体的な傾向で、コロナ禍における業務用の需要減少が主因であると推測される。安定的な需要確保のため、ふるさと納税返礼品やネット販売など個人需要の喚起にも取組んでいく。</p> <p>3 ①「益子まるごとクーポン事業」において宿泊・買物・飲食では高い行使率となった一方、体験クーポンの行使率は40.0%であり、その要因を分析していく。また、外国人が陶芸体験できる環境整備を行うことで、今後のインバウンド誘客に繋げていく。</p> <p>②引続き町外会員の獲得に取組むと共に、デジタルマーケティングを活用した事業展開について検討していく。</p>

第3期ましこ未来計画推進シート

R3(2021)

シート1【 計画・実施状況シート 】

		課局名	観光商工課			
基礎目標	2 風土に根ざした産業をつくる	政策	しごとの創出と町内産業の活性化			
施策	町内循環型経済の推進	進捗状況	100%			
関連する優先目標	3「仕事のあるまち」	関連するSDGs	7エネルギー			
KPI	mashipoカード会員数(町内)	本年度目標値	15,600	現状値	15,283	人
KPI		本年度目標値		現状値		
KPI		本年度目標値		現状値		
		①年間計画(スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果		
主な取組内容	4月	①mashipoへの移行		①②③④協議会役員打ち合わせ ⑤食品衛生協会と連携しWEBマルシェオープンのための打合せを行う		
	5月	②加盟店の増 ③電子マネー化の検討 ④mashipo の活用		①②③④協議会役員会の実施 ⑤事業の内容や今後のスケジュール等のまとめを行う		
	6月	⑤WEBマルシェ事業(DMO)		①②④協議会総会の実施 ③先進地の電話ヒアリング、協議会総会の実施 ⑤申請していた補助金が不採択となったため、クラウドファンディングでの先行販売を検討する		
	7月			①ポイントカード協議会役員会・総会の開催 ②協議会役員会での検討 ③情報収集		
	8月	①ポイントカード協議会運営 ②加盟店の増 ③電子マネー化の検討		①8月15日から31日まで倍ポイントキャンペーンを実施 ②未実施 ③情報収集		
	9月			①飲食店スタンプラリー企画を予定していたが、緊急事態宣言のため中止 ②未実施 ③情報収集		
	10月			①未実施 ②未実施 ③情報収集(㈱フィノバレー)		
	11月	①ポイントカード協議会運営 ②加盟店の増 ③電子マネー化の検討		①ポイントカード協議会役員会の開催 ②協議会役員会での検討 ③情報収集		
	12月			①12月18日～翌年1月16日まで3倍ポイントキャンペーン、12月18日から翌年2月28日まで飲食店ポイントラリーを実施 ②役員会で今後のスケジュールを検討 ③情報収集		
	1月			①12月18日から1月16日まで3倍ポイントキャンペーン、12月18日から翌年2月28日まで飲食店ポイントラリーを実施 ②未実施 ③情報収集		
	2月	①ポイントカード協議会運営 ②加盟店の増 ③電子マネー化の検討		①12月18日から翌年2月28日まで飲食店ポイントラリーを実施 ②未実施 ③情報収集		
	3月			①未実施 ②未実施 ③情報収集(㈱まちのわ、㈱NTT東日本)		

シート2【 四半期検証シート 】

	<p style="text-align: center;">③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等</p>
<p style="text-align: center;">第1 四半期</p>	<p>①②③④⑤役員打ち合わせ、役員会の実施をとおし、今年度の事業の方向性等を確認した。次期四半期以降はキャンペーンや広報の実施、加盟店の加入に向けた働きかけ等を実施する。</p> <p>③飛驒信用組合にさるぼぼコインの概要を伺ったので、今後更に情報収集を進めながら検討を行っていく。</p> <p>⑤WEBマルシェについて事業概要や今後のスケジュールをまとめたが、新商品開発には時間がかかる点や実施するましろボや連携する食品衛生協会の体制が難しいため、スケジュールを見直すことを踏まえた検討も行っていかなければならない。</p>
<p style="text-align: center;">第2 四半期</p>	<p>①ポイントカード協議会総会を7月29日に開催し、R2事業報告・決算、R3事業計画・予算、会則改正の承認等実施した。承認された事業計画・予算に基づき事業を実施していく。</p> <p>②役員を中心に加入促進に向け具体的な手法、店舗選定を行っていく。</p> <p>③引き続き情報集、検討を行う。</p>
<p style="text-align: center;">第3 四半期</p>	<p>①ポイントキャンペーン・飲食店ポイントラリーを実施、ポスター・新聞折込チラシを作成・配付した。今後もキャンペーン等を通し、マシポのPRを行っていく。</p> <p>②役員を中心に加入促進に向け具体的な手法、店舗選定を行っていく。</p> <p>③㈱フィノバレー(さるぼぼコインのシステム開発元)からシステム運用に係る概算金額等のヒアリングを実施した。今後、協議会に情報提供し、検討を進めていく。</p>
<p style="text-align: center;">総括 (第4 四半期 含)</p>	<p>①年間をとおしポイントキャンペーン等を実施し、町内ポイントカード会員数の増を図ったが、KPIは達成できなかった。来年度以降もキャンペーンを継続して実施していくとともに加盟店の増など利便性を高められるよう施策を進めていく。</p> <p>②加盟店の増は図れなかった。システム利用料が掛かることや店独自のカードを発行しているなど、mashipoカード利用のメリットが感じられていない。PR方法や手法など協議会と連携し進めていく。</p> <p>③電子マネー化について、㈱まちのわ、㈱NTT東日本からシステムの概要説明を受けた。来年度以降協議会を含め検討を進めていく。</p>

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての次年度以降への方針・改善点
<p>総括</p>	<p>①継続性について Aこのまま継続1人 B改善・見直し1人 C廃止・終了</p> <p>②意見・提言 A なし。</p> <p>B mashipoカードの利用メリットが出るような施策を推進して下さい。</p>	<p>mashipoについては、独自キャンペーン等を実施していくとともに、電子マネー化を含めた現行システムの見直しを進め、加盟店の増加など利用者の利便性の向上を図ります。</p>

第3期ましこ未来計画推進シート

R3(2021)

シート1【 計画・実施状況シート 】

		課局名	観光商工課			
基礎目標	2 風土に根ざした産業をつくる		政策	しごとの創出と町内産業の活性化		
施策	令和の時代・益子の特性に合った企業誘致の推進		進捗状況	100%		
関連する優先目標	3「仕事のあるまち」		関連するSDGs	8働きがい・経済成長	9産業・技術	
KPI	誘致企業数	本年度目標値	0	現状値	2	—
KPI	有効求人倍率	本年度目標値	0.6	現状値	0.72(4-2)	—
KPI		本年度目標値		現状値		
①年間計画(スケジュール・工程)			②実施内容・実績・成果			
主な取組内容	4月	①産業団地の整備の推進及び既存用地を活用した企業誘致	①事業構想・事業計画の骨子策定 ②当地移転希望の企業訪問・要望確認 ③金融機関・ゼネコンからの情報集を実施 ④企業誘致による雇用の創出:①・② ⑤セミナーの日程調整やチラシ作成			
	5月	②企業誘致制度の周知による企業誘致の推進 ③研究開発系を中心に、新事業機会を創出する企業誘致を目指す	①事業構想・事業計画策定着手、50%の策定完了 ②企業担当者との面談・物件紹介 ③金融機関・ゼネコンからの情報集を実施 ④企業誘致の他、HPでの雇用支援奨励金PR ⑤セミナーの日程調整やチラシ作成			
	6月	④町民の雇用の場を創出する ⑤求職者等向けのセミナー開催	①土地評価鑑定業務発注、事業計画70%策定 ②企業代表者への物件紹介・案内による誘致活動 ③金融機関からの情報集を実施 ④企業誘致の他、HPでの雇用支援奨励金PR ⑤セミナーのチラシ作成や配布			
	7月	①産業団地の整備の推進及び既存用地を活用した企業誘致	①事業構想・事業計画の骨子策定 80%策定完了 ②当地移転希望の企業への訪問、物件の紹介 ③金融機関・ゼネコンからの情報収集を実施 ④地域雇用活性化事業の申請からの雇用創出の対応 ⑤セミナーの実施(4回)			
	8月	②企業誘致制度の周知による企業誘致の推進 ③研究開発系を中心に、新事業機会を創出する企業誘致を目指す	①事業構想・事業計画策定着手、90%の策定完了 ②企業担当者との面談・物件紹介、物件案内の実施 ③金融機関・ゼネコンからの情報収集を実施 ④雇用支援奨励金PR、地域雇用活性化推進事業の採択 ⑤セミナーの実施(1回)、緊急事態宣言によるセミナーの中止(1回)			
	9月	④町民の雇用の場を創出する ⑤求職者等向けのセミナー開催	①土地評価鑑定業務発注、事業計画 100%の策定完了 ②企業代表者との深耕、土地購入の進捗確認等誘致活動 ③金融機関からの情報収集を実施 ④益子町地域雇用創造協議会設立準備 ⑤緊急事態宣言によるセミナーの中止(3回)			
	10月	①産業団地の整備の推進及び既存用地を活用した企業誘致	①事業構想・事業計画は約80%策定。 ②当地移転希望の企業訪問・進捗状況を確認 ③金融機関・ゼネコンからの情報集を実施 ④益子町地域雇用創造協議会の再開。10/28に3町合同就職面接会を実施			
	11月	②企業誘致制度の周知による企業誘致の推進 ③研究開発系を中心に、新事業機会を創出する企業誘致を目指す	①事業構想・事業計画は約90%策定。 ②当地移転希望の企業訪問・当地進出必要事項等説明 ③金融機関・ゼネコンからの情報集を実施 ④益子町地域雇用創造協議会の人員採用他を実施。雇用支援奨励金の交付決定・額の確定			
	12月	④町民の雇用の場を創出する ⑤求職者等向けのセミナー開催	①事業構想・事業計画は完成。事業計画は、より精緻な計画へのブラッシュアップを図る。 ②企業宛連絡、当地進出必要事項等の進捗状況確認。 ③金融機関・ゼネコンからの情報集を実施 ④益子町地域雇用創造協議会のセミナー実施準備 ⑤セミナーの実施(6回)			
	1月	①産業団地の整備の推進及び既存用地を活用した企業誘致	①事業構想を基に用地購入に向けた準備開始。 ②土地利用事前協議・条例指定申請書作成の指導を実施。 ③金融機関・ゼネコンからの情報集を実施:1回 ④益子町地域雇用創造協議会のセミナー実施 ⑤セミナーの実施(4回)			
	2月	②企業誘致制度の周知による企業誘致の推進 ③研究開発系を中心に、新事業機会を創出する企業誘致を目指す	①用地購入費の予算申請・用地購入資料作成 ②土地利用の立会・条例指定申請書内容確認実施。 ③金融機関・ゼネコンからの情報集を実施 ④益子町地域雇用創造協議会のセミナー実施:2回 ⑤セミナーの実施(2回)			
	3月	④町民の雇用の場を創出する ⑤求職者等向けのセミナー開催	①用地購入の資料作成、産業団地開発関連資料の整備。 ②土地利用協議は承認、住民説明会の準備支援。 ③金融機関・ゼネコンからの情報集を実施 ④益子町地域雇用創造協議会のセミナー実施:2回			

シート2【 四半期検証シート 】

	<p style="text-align: center;">③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等</p>
<p style="text-align: center;">第1 四半期</p>	<p>①産業団地の整備については、土地評価価格の妥当性検証のため新たな鑑定業務を発注したので、鑑定結果により土地評価価格を決定し、事業計画の策定を進めていく。次期四半期までの完成を目指す。</p> <p>②県内業者から工場及び家屋の移転の問い合わせを受け、企業訪問等を実施、企業の要望をヒアリング、要望に則した物件の紹介、案内を重ね、当地物件の購入を決定、7月中、土地売買契約となる予定。企業の移転時期は来年の9月頃を予定。本町に本社登記となる予定。併せて町民の雇用に向け働きかけを続けていく。引き続き企業情報のアンテナを高くし、企業誘致に繋がるよう努める。</p> <p>③金融機関、ゼネコンを訪問、研究開発系企業進出のニーズ・企業誘致の情報収集を実施した。引き続き情報収集に努め、研究開発系を中心に、新事業機会を創出する企業誘致を目指す。</p> <p>④企業誘致活動の他、雇用支援奨励金のPRによる雇用の創出に努めた。今後も、町民の雇用の場の創出に繋がるよう、企業誘致、雇用支援奨励金PRを地道に行っていく。</p> <p>⑤7月からのセミナー実施に向け、募集を行い開催に向け準備を行った。今後、求職者の就職に繋がるよう、セミナー開催を行う。</p>
<p style="text-align: center;">第2 四半期</p>	<p>①産業団地の整備については、土地鑑定評価が完了、買取予定価格を算定し、その価格に基づく事業収支計画を含む、事業構想計画の査定が完了した。今後収支計画等を中心に、事業の妥当性を検証していく。</p> <p>②第一四半期の当地誘致(移転)予定の企業は、土地の契約が9月に完了、2022年秋頃の新工場稼働に向け設計他、工場新築等準備を進めている。土地購入時期が遅れたが、当地への移転に変更はない。リズム時計工場については、企業からの電話を受け、リズム時計担当者へ情報提供、短期間ではあるが賃貸先が決定した。引き続き企業情報のアンテナを高くし、企業誘致に繋がるよう努める。</p> <p>③第一四半期同様、金融機関、ゼネコンを訪問、研究開発系企業進出のニーズ・企業誘致の情報収集を実施した。引き続き情報収集に努め、研究開発系を中心に、新事業機会を創出する企業誘致を目指す。</p> <p>④第一四半期同様、企業誘致、雇用支援奨励金のPRを実施した。雇用の創出については、地域雇用活性化推進事業の採択を受け、益子町地域雇用創造協議会の再開が決定、事業計画を基に雇用創出・拡大、町民の雇用の場の創出を図っていく。</p> <p>⑤コロナ感染者の増加により緊急事態宣言となり、予定していたセミナーの中止はあったが、緊急事態宣言解除後のセミナー事業の円滑な運営ができるように前倒しでの準備を実施した。</p>
<p style="text-align: center;">第3 四半期</p>	<p>①産業団地の整備については、事業構想計画は完成し、その内容については、12月に町長・副町長への説明を実施した。事業計画も完成した。今後、事業計画は、完成した計画をベースに、より精緻な計画にブラッシュアップを図る。</p> <p>②当地誘致(移転)予定の企業は、土地の契約が9月から12月に変更となったが契約は完了し、2022年秋頃の新工場稼働に向け設計他、工場新築の準備を進めている。土地購入は遅れたが、当地への移転時期は従来どおりで変更はなく、当地進出のための必要手続等の説明を実施し、令和4年2月に土地利用の協議予定。引続き当地誘致(移転)予定の企業と連絡を取り、工場建設の進捗状況を把握していく。企業誘致については、引き続きアンテナを高くし、企業情報収集を図り、企業の誘致に繋がるよう努める。</p> <p>③第二四半期同様、金融機関、ゼネコンを訪問、研究開発系企業進出のニーズ・企業誘致の情報収集を実施した。引き続き情報収集に努め、研究開発系を中心に、新事業機会を創出する企業誘致を目指す。</p> <p>④第二四半期同様、企業誘致、雇用支援奨励金のPRを実施した。雇用支援奨励金について1件申請があり、交付決定・額の確定を行った。雇用の創出については、地域雇用活性化推進事業の採択を受け、10月に益子町地域雇用創造協議会が再開し、来年1月から事業計画を基に毎月セミナーを開催、雇用創出・拡大、町民の雇用の場の創出を図っていく。</p> <p>⑤求職者セミナー参加者及び合同就職面接会参加者の就職先等状況追跡アンケートや状況追跡調査を行う。</p>
<p style="text-align: center;">総括 (第4 四半期含)</p>	<p>①産業団地の整備については、事業構想計画は完成し、来年度の用地購入費の予算も承認となった。用地買収交渉は来年度から着手、交渉資料の準備・作成を実施した。日々着実な業務を遂行し、産業団地整備の実現を図ります。</p> <p>②当地誘致(移転)予定の企業に対し、土地利用事前協議書及び企業誘致条例の指定申請書の作成を指導、2件とも1月に受付となった。土地利用事前協議については立会も実施、3月に承認となった。条例に関しては、来年度の審査会開催に向け委員選定、資料作成等も準備を実施した。3月は工事着工に向けた近隣住民説明会開催の支援を実施、4月開催となる予定です。当該企業の工事は4月20日頃を予定、引続き当地誘致(移転)予定の企業と連絡を取り、工場建設の進捗状況を把握していく。企業誘致については、引き続きアンテナを高くし、企業情報収集を図り、企業の誘致に繋がるよう努める。</p> <p>③第三四半期同様、金融機関、ゼネコンを訪問、研究開発系企業進出のニーズ・企業誘致の情報収集を実施した。引き続き情報収集に努め、研究開発系を中心に、新事業機会を創出する企業誘致を目指す。</p> <p>④第三四半期同様、企業誘致、雇用支援奨励金のPRを実施した。雇用の創出については、益子町地域雇用創造協議会主催のセミナーが開催となり、合計5回の開催となった。1月・2月はコロナまん延防止等重点措置の影響もあり、参加者は人数は低調であったが、3月はコロナ感染者数も減少傾向、コロナまん延防止等重点措置解除の見通しとなったことから、参加人数は増加、セミナー開催による雇用創出・拡大、町民の雇用の場の創出を図っていく。</p> <p>⑤求職者セミナー参加者及び合同就職面接会参加者の就職先等状況追跡アンケートや状況追跡調査を基に次年度の効果的なセミナー開催計画を作成する。</p>

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての次年度以降への方針・改善点
<p>総括</p>	<p>①継続性について このまま継続2人 改善・見直し 廃止・終了</p> <p>②意見・提言 ・なし。</p> <p>・今後も「仕事のある町」を目標に企業誘致を積極的に推進して下さい。</p>	<p>・次年度についても、策定した年間計画に則し、業務を遂行し企業誘致等、目標達成に努めます。</p>

第3期ましこ未来計画推進シート

R3(2021)

シート1【 計画・実施状況シート 】

		課局名	観光商工課			
基礎目標	2 風土に根ざした産業をつくる	政策	しごとの創出と町内産業の活性化			
施策	商店街活性化と起業支援	進捗状況	100%			
関連する優先目標	3「仕事のあるまち」	関連するSDGs	—			
KPI	起業支援補助金利用件数(累計)	本年度目標値	30	現状値	31	件
KPI		本年度目標値		現状値		
KPI		本年度目標値		現状値		
		①年間計画(スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果		
主な 取組 内容	4月	①起業支援補助金の周知		①町HP及び窓口案内 ②補助金問合せ1件、融資申込1件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置		
	5月	②商工会と連携し、事業者への指導・支援体制の強化、融資制度による支援 ③求人情報、空き店舗情報等の情報収集及び発信		①町HP及び窓口案内 ②補助金問合せ2件、融資申込5件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置		
	6月	④チャレンジショップの整備		①町HP及び窓口案内 ②融資申込3件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置 ④改修工事及び管理業務の発注		
	7月	①起業支援補助金の周知		①町HP及び窓口案内 ②融資申込1件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置 ④改修工事及び管理業務		
	8月	②商工会と連携し、事業者への指導、融資制度による支援 ③求人情報、空き店舗情報等の情報収集及び発信		①町HP及び窓口案内 ②融資申込 無 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置 ④改修工事及び管理業務。備品の入札。		
	9月	④チャレンジショップの工事・募集要項等の整備		①町HP及び窓口案内 ②融資申込 2件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置 ④国へ随時変更申請を提出、改修工事及び管理業務を一時中止。		
	10月	①起業支援補助金の周知		①町HP及び窓口案内 ②融資申込2件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置 ④改修工事及び管理業務		
	11月	②商工会と連携し、事業者への指導、融資制度による支援 ③求人情報、空き店舗情報等の情報収集及び発信 ④チャレンジショップの工事・募集要項等の整備		①起業支援補助金審査委員会を開催。申請2件中2件交付決定。 ②信用保証料補助金交付要領を改正し、町補助を1/2から全額に改正。町融資申込 3件 ③下野新聞社発行「栃木の就職情報誌2023」へ原稿提供。月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置 ④チャレンジショップ改修工事完了。		
	12月			①町HP及び窓口案内 ②融資申込 6件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置 ④利用者募集。1件申請有。		
	1月	①起業支援補助金の周知		①町HP及び窓口案内 ②融資申込5件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置 ④未実施		
	2月	②商工会と連携し、事業者への指導、融資制度による支援 ③求人情報、空き店舗情報等の情報収集及び発信		①町HP及び窓口案内 ②商工会委託によるパネルディスカッション実施1回 融資申込5件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置 ④審査会開催。使用者決定。		
	3月	④チャレンジショップの運営		①町HP及び窓口案内 ②商工会委託によるセミナー実施計6回 融資申込8件 ③月3回役場ホール、道の駅等に求人情報の設置 ④3月26日オープン。		

シート2【 四半期検証シート 】

	<p style="text-align: center;">③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等</p>
<p style="text-align: center;">第1 四半期</p>	<p>①引き続き制度の周知・案内を実施し、制度利用・起業支援に繋げていく。</p> <p>②町緊急経済対策事業者等支援金の交付や国・県の支援情報の提供、融資制度等による支援を実施した。引き続き、コロナ関連を含め情報収集・支援を実施していく。</p> <p>③引き続き情報収集及び発信を行う。</p> <p>④チャレンジショップの工事及び監理業務を発注したので、次期四半期は、募集要項等の整理や備品発注等の業務を行う。</p>
<p style="text-align: center;">第2 四半期</p>	<p>①また引き続き制度の周知・案内を実施し、制度利用・起業支援に繋げていく。</p> <p>②町緊急経済対策事業者等支援金の交付や国・県の支援情報の提供、融資制度等による支援を実施した。引き続き、コロナ関連を含め情報収集・支援を実施していく。</p> <p>③引き続き情報収集及び発信を行う。</p> <p>④チャレンジショップの工事に一部変更が生じ、国への地方創生拠点整備交付金施設整備計画の随時変更申請を行った。交付決定まで工事が出来ないことから、工事及び業務を一時中止とし、期間を延長した。工事完了に向け引き続き業務を進めるとともに、募集要項等の整理を行っていく。</p>
<p style="text-align: center;">第3 四半期</p>	<p>①起業支援補助金審査委員会を実施し申請2件中2件を交付決定した。引き続き制度の周知・案内を実施し、制度利用・起業支援に繋げていく。</p> <p>②益子町中小企業振興資金に係る信用保証料補助金交付要領の改正を行い、町補助分を1/2から全額に改正した。企業からの申請も増加しているので、引き続き周知を行っていく。</p> <p>③引き続き情報収集及び発信を行う。</p> <p>④チャレンジショップの工事が完成し、利用者を公募を行ったところ、1件の申請があった。今後は申請者の審査を行い、利用者の決定、チャレンジショップ運営に向けた手続きを行っていく。</p>
<p style="text-align: center;">総括 (第4 四半期 含)</p>	<p>①起業支援補助金への問合せは都度来ているので、町内での独立開業へ繋げられるよう制度案内を行っていく。</p> <p>②益子町商工会への委託事業として事業主向けのセミナー企画を実施した。今後も商工会と連携を密にして事業者への支援を実施していく。</p> <p>③引き続き情報収集及び発信を行う。</p> <p>④チャレンジショップの利用者決定を決定。3月26日にオープンした。今後、町商工会等と協力しながら、使用者の独立に向けた経営指導を行う。</p>

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての次年度以降への方針・改善点
<p>総括</p>	<p>①継続性について このまま継続2人 改善・見直し 廃止・終了</p> <p>②意見・提言 ・なし。</p> <p>・今後も起業支援補助金の周知を行い、新事業設立推進を図って下さい。</p>	<p>ウィズコロナ・アフターコロナの中で町商工業の進展を図るよう関係機関と協力し制度周知や活用を推進していく。</p>

第3期ましこ未来計画推進シート

R3(2021)

シート1【 計画・実施状況シート 】

		課局名	観光商工課			
基礎目標	2 風土に根ざした産業をつくる		政策	しごとの創出と町内産業の活性化		
施策	世界に誇る手仕事の町づくり		進捗状況	100%		
関連する優先目標	—		関連するSDGs	—		
KPI	益子焼総販売額		本年度目標値	23(R1)	現状値	23(R1) 億円
KPI			本年度目標値		現状値	
KPI			本年度目標値		現状値	
①年間計画(スケジュール・工程)			②実施内容・実績・成果			
主な取組内容	4月		②4/29-5/9 11日間ましこWEB陶器市開催 ⑥国内作家滞在のための事前調査を実施した。 ⑦情報交換			
	5月	①かしましこのつながりを活用したPR ②WEB陶器市事業(DMO) ③益子焼や工芸品のあるライフスタイルの発信 ④益子焼提案事業(DMO) ⑥益子国際工芸交流館を拠点とし、国内外から手仕事を学びに来る仕組みの構築 ⑦窯業技術支援センターでの人材育成支援や就労支援 ⑧益子焼の授業など特色ある教育活動の充実への協力	②4/29-5/9 11日間ましこWEB陶器市開催 5/19～発送開始 ④オトワレストラン(宇都宮市)より器の提案をしてもらいたいと打診があったので、益子焼販売店組合と今後の受け入れ体制や今後の流れについて打合せを行う ⑥国内作家滞在のための事前調査を実施した。 ⑦情報交換			
	6月		①笠間市との事業打合せ実施 ②6/3発送完了。返品や事業収支集計開始 ④事業提案書を作成する ⑥山本教行氏講演会 6/18参加者17名 ⑦情報交換			
	7月	①かしましこのつながりを活用したPR ③益子焼や工芸品のあるライフスタイルの発信	⑥前崎信也氏講演会 7/3参加者23名			
	8月	⑥益子国際工芸交流館を拠点とし、国内外から手仕事を学びに来る仕組みの構築 ⑦窯業技術支援センターでの人材育成支援や就労支援	⑥粘土づくり&小物作成のワークショップを実施。8/7(初級10名参加)8/18初級、8/25中級、8/28中級は緊急事態措置のため延期。			
	9月	⑧益子焼の授業など特色ある教育活動の充実への協力	⑥「黒田泰蔵」展との連携企画演奏会9/2緊急事態措置のため延期。国内作家滞在について、滞在時期、内容等について交渉を行った。 ⑦県工業振興課、窯業技術支援センター等と打ち合わせを実施し、支援センター卒業生の活動の場について検討。			
	10月	①かしましこのつながりを活用したPR ②WEB陶器市、ふるさと納税事業(DMO) ③益子焼や工芸品のあるライフスタイルの発信 ⑥益子国際工芸交流館を拠点とし、国内外から手仕事を学びに来る仕組みの構築 ⑦窯業技術支援センターでの人材育成支援や就労支援 ⑧益子焼の授業など特色ある教育活動の充実への協力	①「かしましこ推奨店事業」参加店募集 ② 次回WEB陶器市を2/19-27、9日間開催で決定 ③益子焼 秋の陶器市in佐野プレミアム・アウトレット開催 ⑥「黒田泰蔵」展との連携企画演奏会10/2開催、39名参加。8月から延期された粘土作り&小物作成のワークショップを10/16、10/17、10/23に開催。参加者計23名。			
	11月		①「かしましこ推奨店事業」参加店決定(11/25)。益子町60店舗、笠間市63店舗 ② 益子町ふるさと納税サイトを11/18にオープン。スタート時点では16事業者参加(陶器13) ⑦窯業技術支援センターでの伝習生募集を町HPでPR			
	12月		①「かしましこ推奨店事業」ポスター・チラシ・HP作成。 ② 益子町ふるさと納税サイト22事業者参加(陶器19)。 WEB陶器市での台湾発送のため佐川急便と打合せを12/14に行う。 WEB陶器市出店者説明会を12/19、20開催。36事業者参加。 ⑥令和4年度の作家滞在事業について、滞在作家を決定した。今般のコロナ感染症の状況を鑑みて国内在住作家(国籍問わず)2名とした。			
	1月		①かしましこ推奨店事業 ③Instagramを利用した「益子焼を使おうフォトコンテスト2021」を1月7日から2月18日まで実施。 ⑥美術館連携企画展「うつわの未来へ展」の開催 1/18～3/27			
	2月	①かしましこのつながりを活用したPR ③益子焼や工芸品のあるライフスタイルの発信 ⑥益子国際工芸交流館を拠点とし、国内外から手仕事を学びに来る仕組みの構築 ⑦窯業技術支援センターでの人材育成支援や就労支援 ⑧益子焼の授業など特色ある教育活動の充実への協力	①かしましこ推奨店事業 ③Instagramを利用した「益子焼を使おうフォトコンテスト2021」を1月7日から2月18日まで実施。 ⑥美術館連携企画展「うつわの未来へ展」の開催 1/18～3/27			
	3月		①かしましこ推奨店事業 ③フォトコンテスト入賞作品を活用し益子焼を使おう条例ポスターを作成 ⑦未実施 ⑥美術館連携企画展「うつわの未来へ展」の開催 1/18～3/27 ⑧益子芳星高校へ伝統的工芸品産業支援事業用消耗品として益子焼材料等を支援。			

シート2【 四半期検証シート 】

	<p style="text-align: center;">③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等</p>
<p style="text-align: center;">第1 四半期</p>	<p>①笠間市から提案のあった「かさまこ推奨店事業」について、益子町商工会と打ち合わせを行った。今後、事業実施に向け、詳細について打ち合わせを行っていく。</p> <p>②WEB陶器市の売上げ目標を5000万円としていたが、まだ集計中であるが4,000万円前後になる予定。ただ事業収支としては、支出の部分を大幅に減額できたので、当初見込みよりは改善される予定。次期以降は今後に向けて更なる改善点等を洗い出す必要がある。</p> <p>③Instagramを活用したPRを実施していく。</p> <p>④オトワレストランへの益子焼提案について、販売店組合では組合員が7名しかいないため広く募集することができないこともあり、町内の販売店の受け皿となるような母体を探っていかなければならない。先方への事業提案については7/13予定。</p> <p>⑥コロナ禍における滞在事業として、今年度は国内作家を対象として事業を行うこととした。昨年度に実施した益子在住の陶芸家調査の結果をもとに作家を選定し進めていく。</p> <p>⑦益子焼関係団体振興協議会を活用した窯業技術支援センターとの情報交換等を通して、具体的な施策を検討していく。</p> <p>⑧例年、益子芳星高校へ対し陶芸材料の支援を実施しているが、それ以外に協力できる分野があるかヒアリング等実施していく。</p>
<p style="text-align: center;">第2 四半期</p>	<p>⑥コロナ禍における滞在事業として、国内作家を対象とした事業をおこなうこととした。しかしながら、感染状況が厳しい中で滞在制作は実施困難なところでもあり、滞在制作だけにこだわらず、ワークショップや講演会といった方法での事業を検討し進めていく。</p> <p>⑦支援センター卒業生の活動できる場について、具体的な検討を進めていく。</p> <p>⑧他市教育委員会から小学校社会科副読本に関する資料提供の依頼あったので、益子焼協同組合へのヒアリング等を行い、資料や写真を提供していくなど教育活動への協力を行った。今後とも要望に応じ資料提供を実施するなど協力を行っていく。</p>
<p style="text-align: center;">第3 四半期</p>	<p>①「かさまこ推奨店事業」が参加店を募集した結果、想定していた倍の計123店舗に参加いただき、事業を開始した。今後はチラシ・HPを通し事業PRを行っていく。</p> <p>②DMOにて益子町ふるさと納税サイトを11/18にオープン。周知期間が十分にとれず、年末の駆け込み需要に対応できず寄付額が低調になる予定(集計中)。今後の周知方法や返礼品の充実が課題となる。</p> <p>WEB陶器市については、物流や購買が落ち着き、競合が少ない2月に開催することで決定。海外販路拡大の足がかりとして、台湾向けに販売・発送を行えるよう協議中。</p> <p>③益子焼 秋の陶器市in佐野プレミアム・アウトレットを益子焼関係団体振興協議会主催で開催し、2日間にわたり10団体(役場合)が参加した。第4四半期はInstagramを利用したフォトコンテストを行う。</p> <p>⑥コロナ禍における滞在事業として今年度については、作家滞在は行わず後援会(講演内容は、後日、オンライン配信(YouTubeを予定)を実施することとした。国内外を問わず、益子と作家の関係を繋いでいくことで、今後の事業展開の準備を行っていく。</p>
<p style="text-align: center;">総括 (第4 四半期 合)</p>	<p>①かさまこ推奨店事業が実施中であり、各店でPR事業が進んでいる。</p> <p>③益子焼を使おう条例フォトコンテスト2021を開催し、入賞者を決定、益子焼を使おう条例ポスターを作成し、町内外へ配付・掲示しPRを実施した。来年度以降は新たに別事業を立ち上げ益子焼等のライフスタイルの発信を行う予定である。</p> <p>⑧教育活動への支援は益子芳星高校への益子焼材料等の支援を行った。また陶芸メッセでの社会科見学時の講義等も実施した。今後とも要望に応じ実施する。</p> <p>⑥美術館連携企画展「うつわの未来展」を開催。町内陶芸家にとって参考となる海外で学んだ経験がある作家によるクロストークを実施できた。次年度も、滞在作家によるワークショップ、講演会等を行うことで町内陶芸家のレベルアップを図るよう取り組んでいく。</p>

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての次年度以降への方針・改善点
<p>総括</p>	<p>①継続性について このまま継続2人 改善・見直し 廃止・終了</p> <p>②意見・提言 ・なし。</p> <p>・日本遺産の「かさましこ」ブランドを活かし、益子焼の販売を増やして下さい。</p>	<p>日本遺産「かさましこ」について、認知度が十分とは言えない面があるので、町生涯学習課や笠間市と協力しPR事業等を推進していく。</p>

第3期ましこ未来計画推進シート

R3(2021)

シート1【 計画・実施状況シート 】

		課局名	農政課			
基礎目標	2 風土に根ざした産業をつくる	政策	成長産業としての農業の育成と「食」のまちづくり			
施策	地域の特性に合った農産物の生産体制の整備	進捗状況	100%			
関連する優先目標	3「仕事のあるまち」	関連するSDGs	2飢餓			
KPI	新規就農者数(平成26年度からの累計)	本年度目標値	33	現状値	37	人
KPI		本年度目標値		現状値		
KPI		本年度目標値		現状値		
		①年間計画(スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果		
主な取組内容	4月			④新規就農者等支援事業費補助金の改正 ⑤⑥小泉・本沼地区委員会		
	5月	②遊休農地の利用・解消 ③新規就農促進のための出し手受け手の調整 ④移住定住との融合を図った新規就農者の就農促進 ⑤農業関係団体と連携した担い手づくり ⑥土地改良事業の推進		④農のワンストップ窓口の打合せ実施 ⑥小泉・本沼地区換地ヒアリング ⑥本沼地区一時利用地境界杭打設 ⑤⑥小泉・本沼地区営農部会		
	6月	⑦民間企業、福祉施設などの多様な主体と連携を図り農業生産体制を整備する		②耕作放棄地の解消(1件・森林ノ牧場46,132㎡) ③新規就農希望者とのマッチング(個人:2件金子、島谷・法人:2件HOYA,アグリックス) ④農のワンストップ窓口の打合せの実施 ⑤⑥益子西部地区委員会 里西・星の宮土地改良会議		
	7月			②農地パトロール(農地利用状況調査/7月~9月)の実施 ②③④新規就農者(県外移住)の利用権設定 ⑥7/3里西・星の宮地区土地改良事業説明会 7/21小泉・本沼土地改良事業地区委員会、7/27小泉・本沼地区委員会営農部会		
	8月	②遊休農地の利用・解消 ③新規就農促進のための出し手受け手の調整 ④移住定住との融合を図った新規就農者の就農促進 ⑤農業関係団体と連携した担い手づくり ⑥土地改良事業の推進 ⑦民間企業、福祉施設などの多様な主体と連携を図り農業生産体制を整備する		②農地パトロール(農地利用状況調査/7月~9月)の実施 ②③④新規就農者(県外移住)に係る耕作放棄地整備 ⑥8/11小泉・本沼土地改良工事説明会、8/26里西・星の宮地区土地改良事業推進協議会、8/27小泉・本沼地区委員会営農部会役員会議		
	9月			②農地パトロール(農地利用状況調査/7月~9月)の実施 ②③④新規就農者(県外移住)に係る耕作放棄地整備 ⑥9/27小泉・本沼土地改良事業地区委員会、9/3、9/15里西・星の宮地区土地改良事業推進協議会		
	10月			⑥10/13及び10/20里西・星の宮地区土地改良事業説明会(70名) 10/27里西・星の宮地区土地改良事業推進協議会		
	11月	①農業戦略の構想 ②遊休農地の利用・解消 ③新規就農促進のための出し手受け手の調整 ④移住定住との融合を図った新規就農者の就農促進 ⑤農業関係団体と連携した担い手づくり ⑥土地改良事業の推進 ⑦民間企業、福祉施設などの多様な主体と連携を図り農業生産体制を整備する		②~1農地利用意向調査(549件、1,112筆、88.7ha) 発送 ⑥小泉・本沼土地改良事業現場代理人会議		
	12月			②~2耕作放棄地解消事業(2件、1.4ha) ⑤農業者との意見交換会(12/20、36名) ⑥12/15小泉・本沼土地改良事業地区委員会 12/24里西・星の宮地区土地改良事業推進協議会 12/27小泉・本沼地区営農部会		
	1月	①農業戦略の構想 ②遊休農地の利用・解消 ③新規就農促進のための出し手受け手の調整 ④移住定住との融合を図った新規就農者の就農促進 ⑤農業関係団体と連携した担い手づくり ⑥土地改良事業の推進 ⑦民間企業、福祉施設などの多様な主体と連携を図り農業生産体制を整備する		④農業委員会委員研修(1/21-22) ⑥1/13小泉現場代理人会議 1/26里西・星の宮土地改良事業推進会議		
	2月	①農業戦略の構想 ②遊休農地の利用・解消 ③新規就農促進のための出し手受け手の調整 ④移住定住との融合を図った新規就農者の就農促進 ⑤農業関係団体と連携した担い手づくり ⑥土地改良事業の推進 ⑦民間企業、福祉施設などの多様な主体と連携を図り農業生産体制を整備する		⑧牛乳消費拡大行動(2/21) ②農業委員会学習会の開催(2/21) ⑥2/2小泉・本沼地区委員会 2/24~25里西・星の宮陸田会議		
	3月	⑧その他		3/25小泉本沼地区営農部会 ⑥3/3里西・星の宮地区土地改良事業推進協議会 3/15里西営農会議 3/23小泉・本沼地区委員会		

シート2【 四半期検証シート 】

	<p style="text-align: center;">③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等</p>
<p style="text-align: center;">第1 四半期</p>	<p>④⑤新規就農者等支援事業費補助金の改正を実施し、農業機械等の購入費及び種子・種苗購入費の補助を追加した。</p> <p>第3期ましこ未来計画の実現を目的とした農と食のプロジェクトで実施する「農のワンストップ窓口の構築」は新規就農者が必要とする情報提供や支援を行うものである。今年度は、情報として提供する農地や施設について既存のデータをもとに現地調査を行いワンストップ窓口の基礎作りを実施する。第1四半期は農と食のプロジェクトの作成、第2四半期から行う現地調査に向けて打ち合わせを行った。</p> <p>⑥県営土地改良事業小泉・本沼地区について、今年度工事区域内水源を選定する必要がある。県道から東側は入山池の水を利用し、西側は井戸水を活用する計画。井戸水は掘削しないと確定的でないが、120mほどボーリングを行う予定である。益子西部地区については、農地集積促進費が約5千万円交付されるので、借入金繰上償還と工事費に充てていく予定である。里西・星の宮地区については、より具体的な営農構想を策定するため、地権者を対象としたアンケートを今後行う予定である。</p>
<p style="text-align: center;">第2 四半期</p>	<p>②農地(遊休農地)の利用状況を把握するため農業委員及び農地利用最適化推進委員が、町内全域を対象として踏査を行った。この結果を受けて、全筆を対象とした農地利用状況調査を実施する予定である。今年度より制度・内容が大幅に改正されたことから、遅滞なくスムーズな調査の実施に努めたい。</p> <p>②③④就農者に対し、農地の選定・確保、暮らし環境のサポート、耕作放棄地の解消といった農地利用に係る支援を行った。新規就農者、特に移住型に関しては、総合的かつ多面的な支援が不可欠であり、総合案内など、課・係を横断した取り組みが求められる。</p> <p>⑥里西・星の宮地区土地改良事業の推進については、10月13日、10月20日の両日で事業説明会を実施する。関係者は約200名。今後地権者、耕作者に対しアンケート調査を行う予定。事業へ反対者があった場合については、地元推進委員と連携し理解を得られるような対策を図る。また、未相続や抵当権設定の土地も目立つので、早期に解決をする必要がある。小泉については、10月から畑地帯の区画整理工事が着手される。工事区域は、つくば益子バイパス予定地の西側を2分割で実施、その他、令和元年度に整備した水田暗渠工事や深井戸ボーリング工事(200m)も行う予定である。</p>
<p style="text-align: center;">第3 四半期</p>	<p>②-1遊休農地利用状況調査の結果を受け、農地利用意向調査を実施。 この調査は、農地の利用意向を明確にし有効利用に資することを目的として行うもので、今後結果を整理し、遊休農地等の現状把握に努める。</p> <p>②-2耕作放棄地解消事業 昨年度制度改正を行ったことにより、農地の再生作業を進めやすくなった。改正後、5件の利用実績となっている。</p> <p>今回は新たに加工用ぶどうの生産、水稻の作付を行う2件の申請があり、荒廃農地が解消された。 今後は、新規作物導入や解消後の取り組み等に対する支援策を検討していくものとする。</p> <p>⑤農業者との意見交換会を実施。 (1)担い手や経営対策に関すること(2)遊休農地対策に関することの2つのテーマを設定し、ディスカッションした。 農業者からは、地域の実情を把握した上での対策や集積集約化の必要性、農家非農家問わず就農へのアプローチを行うことなどが挙げられた。</p> <p>⑥里西・星の宮地区土地改良事業推進について、事業説明会を行いアンケートへの依頼及び所有農地の申告をお願いした。今後は欠席者や反対者に対し、推進委員がグループを組織し、働きかけを行っていく予定である。</p>
<p style="text-align: center;">総括 (第4 四半期 含)</p>	<p>④会津若松市農業委員会を訪れ、新規就農者支援、担い手確保育成に向けた農業相談等の取り組みに関して研修を行った。</p> <p>⑧牛乳の国内消費落ち込む中、委員会行動として牛乳の消費拡大行動を行った。</p> <p>②遊休農地の利用・解消の観点から、太陽光及び土砂の環境施策について自主事業として勉強会を開催した。</p> <p>⑥小泉・本沼土地改良事業については、今年度は小泉地区の畑地帯(バイパス予定地西側)を工事着手した。天候不順により工期を今年5月末まで延長した。概ね予定どおり進んでいる。</p> <p>里西・星の宮地区土地改良事業の推進については、地元同意率が75%の状況でスケジュールを1年延長した。とりわけ、里西地区の同意率が悪い状況である。県営事業の採択要件では同意率100%でない採択されないことから、引き続き粘り強く地元推進員が反対者へ働きかける必要がある。反対理由の多くが、経常賦課金の負担であり、今後いかに担い手が生産性の高い、儲かる農業を進めるかが大きな課題となっている。</p>

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての次年度以降への方針・改善点
<p>総括</p>	<p>①継続性について このまま継続2人 改善・見直し 廃止・終了</p> <p>②意見・提言 ・なし。</p> <p>・新規就農者数は本年度目標を達成したが、今後もあらゆる施策を行い農業就業者数のアップを図って下さい。</p>	<p>令和4年度も引き続き振興事務所やJAなど関係機関と連携し、就農希望者の個々の状況に合った支援を行っていきたい。</p>

第3期ましこ未来計画推進シート

R3(2021)

シート1【 計画・実施状況シート 】

		課局名	農政課			
基礎目標	2 風土に根ざした産業をつくる		政策	成長産業としての農業の育成と「食」のまちづくり		
施策	農と食のまちづくりの推進		進捗状況	100%		
関連する優先目標	3「仕事のあるまち」		関連するSDGs	—		
KPI	「食の学校」(仮)で新たに開発された商品の数(累計)		本年度目標値	0	現状値	1
KPI			本年度目標値		現状値	
KPI			本年度目標値		現状値	
①年間計画(スケジュール・工程)			②実施内容・実績・成果			
主な 取組 内容	4月		①西洋野菜研究会による試作 (ロマネスコ、カリフローレ、トレビス、イタリアンパセリ)			
	5月	①飲食店と連携し益子のブランドとなる農産物を研究し、生産体制を拡充する	①飲食店(町内・都内)への西洋野菜研究会のサンプル提供,アンケートの実施(約50店舗) ①西洋野菜研究会の打合わせ実施			
	6月	②③「食の学校」(仮)を創設し、町内産の農産物を使った新商品開発などの技術的支援	①飲食店(町内・都内)への西洋野菜研究会のサンプル提供,アンケートの実施(10店舗) ①西洋野菜研究会の打合せ実施(飲食店との意見交換) ②食のセミナー実施(衛生管理セミナー) 「テイクアウトを始めたお店が気をつけたい衛生管理」			
	7月		①飲食店へのヒアリング(5ヶ所) ①西洋野菜研究会の打合せ実施 ②③新商品開発の技術的支援			
	8月	①飲食店と連携し益子のブランドとなる農産物を研究し、生産体制を拡充する ②③「食の学校」(仮)を創設し、町内産の農産物を使った新商品開発などの技術的支援	①西洋野菜研究会の打合せ実施 ①サンプル配布(シシリアンルージュ) ②③新商品開発の技術的支援 ②③経営セミナーの実施 参加者 10名			
	9月		①飲食店による圃場視察、意見交換(飲食店6名、農家5名) ①農家の先進農家視察(池ノ入農園、岩村雄也氏) ①飲食店へのましこ西洋野菜研究会の野菜の販売 ②新商品開発の技術的支援			
	10月		①飲食店と連携したマルシェの開催 ①飲食店との試食会 ①飲食店との意見交換			
	11月	①飲食店と連携し益子のブランドとなる農産物を研究し、生産体制を拡充する ②③「食の学校」(仮)を創設し、町内産の農産物を使った新開発などの技術的支援	①飲食店への野菜ボックス販売開始 ①トキタ種苗視察			
	12月		①飲食店への野菜ボックス販売開始 ①トキタ種苗との打ち合わせ			
	1月		①トキタ種苗との打ち合わせ ②町内飲食店への野菜ボックス販売			
	2月	①飲食店と連携し益子のブランドとなる農産物を研究し、生産体制を拡充する ②③「食の学校」(仮)を創設し、町内産の農産物を使った新商品開発などの技術的支援	①トキタ種苗からのカーリノケールの苗の提供 ②③町内飲食店を対象とした加工品開発の技術的支援			
	3月		①道の駅ましこ「ましこのごはん」シェフとの打合せ ②③食のセミナー3回目開催 ②③町内飲食店を対象とした加工品開発の技術的支援			

シート2【 四半期検証シート 】

	<p style="text-align: center;">③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等</p>
<p style="text-align: center;">第1 四半期</p>	<p>①現在6名の若手農家で構成される「西洋野菜研究会」が西洋野菜の試作やマーケティングを行い、技術の向上や販路の拡大を目指す。第1四半期は、新規作物(ロマネスコ、トレビス、イタリアンパセリ)の試作に向けて振興事務所との連携により現地指導を実施した。また、飲食店へのサンプル提供、アンケートを通してニーズについて調査を行った結果、西洋野菜は町内飲食店の半数以上を占めるカフェ系やイタリアンでのニーズが高いことが判明した。今後は、飲食店が購入しやすい仕組みの構築が課題となる。6月に実施した飲食店と農家、道の駅スタッフとの意見交換では、農産物の流通に関する建設的な意見が交わされた。今後も引き続き各関係者が連携できる環境づくりに努めたい。</p> <p>②食のセミナーでは、町内飲食店を対象に「衛生管理セミナー」「経営セミナー」「商品開発セミナー」を開催する予定である。6月には管理栄養士による衛生管理セミナーを開催し、9件の飲食店が受講したが、6月から義務化されるHASSAPや商品開発について個別の質問があり、有効なセミナーとなった。</p>
<p style="text-align: center;">第2 四半期</p>	<p>①飲食店に対し個別にヒアリングを実施した。西洋野菜のニーズはあるものの、飲食店側からは各農家とのやりとりの煩雑さや、買いに行く手間などがネックとなり、町内産の野菜の使用が困難という共通の課題が明確になった。物流を検討しながらも、飲食店と農家の距離を縮め、視察や試食会を通してお互いの理解を深め、まずは「ましこの西洋野菜を知ってもらおう」というところから始めるという方向性で、合意形成を図ることができた。その中で飲食店から月一回の野菜ボックス、益子出身の宇都宮市のシェフとの試食会による県内飲食店へのPRの提案があった。第3四半期からは、これらの提案について飲食店と農家で検討、実行し少しずつ町内、県内で「ましこ西洋野菜」の認知度を高めていきたい。特に町は事業が円滑に進むよう双方がコミュニケーションをとれるよう支援を継続したい。また販路の確保と併せて生産体制についても振興事務所と連携を取りながら支援を進めていきたい。</p> <p>②8月に実施した経営セミナーでは、参加した飲食店2件から加工品開発の相談があった。新商品開発の技術的支援は益子の野菜を活用した「レトルトカレー」「しょうがソース」「しょうが佃煮」「ドレッシング」「鶏肉瓶詰加工品」などの開発の支援を行っている。</p>
<p style="text-align: center;">第3 四半期</p>	<p>①町内、町外の飲食店と意見交換、試食会、SNSでの交流を通して益子の野菜について情報交換を活発に行うことができている。飲食店、農家の理解が深まり、お互いの意欲も高まっている。今後は、定期的な試食会などを行いより効果的な交流を図っていききたい。また生産体制については種苗会社と協力して戦略的に拡充し、収益の上がる農業を目指していきたい。②③「食の学校」(仮)では町内飲食店が町内農産物を使った商品を開発した。町内農産物を使った飲食店による加工品の開発は、町内循環型経済の促進にも有効であるため、継続していきたい。</p>
<p style="text-align: center;">総括 (第4 四半期 含)</p>	<p>①イタリア野菜専門のトキタ種苗と町内の若手農家が連携し、今後需要の見込める「カーリーケール」を生産することになった。トキタ種苗の持つネットワークによる販売はもちろんのこと、今年度視察や意見交換、試食会を通して交流を深めた町内飲食店と連携して「カーリーケール」のPRを図っていく。まずは売り場のある道の駅ましこのシェフと打合せを行い、「カーリーケール」を広めるためのアイデア出しを行った。栄養価が高く食べやすいカーリーケールは大きな可能性を秘めていることから、今後町のブランド野菜の候補として検討していきたい。②③飲食店を対象とした加工品開発の技術支援では、日頃から飲食店で提供している自慢の味を保存性の高い加工品に仕上げる技術を習得させた。益子の農産物を活用した加工品計7品が完成し、商品化に向けて準備中である。コロナ禍で業績が低迷している飲食店救済のため、町内農産物の消費拡大のため非常に有益な事業であった。次年度も継続して実施していきたい。</p>

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての次年度以降への方針・改善点
<p>総括</p>	<p>①継続性について このまま継続2人 改善・見直し 廃止・終了</p> <p>②意見・提言 ・なし。</p> <p>・町内産の農産物を使用した新製品の開発等今後も推進して下さい。益子の西洋野菜も今後期待します。</p>	<p>西洋野菜の安定供給、質の向上、ブランディングを並行して進め、生産農家の所得向上を目指して次年度も取り組んでいきたい。</p>

シート1【 計画・実施状況シート 】

		課局名	農政課			
基礎目標	2 風土に根ざした産業をつくる	政策	成長産業としての農業の育成と「食」のまちづくり			
施策	農産物の販路拡大	進捗状況	100%			
関連する優先目標	—	関連するSDGs	2飢餓			
KPI	市町村別農業産出額	本年度目標値	35.3 (R2)	現状値	31.4(R2)	億円
KPI		本年度目標値		現状値		
KPI		本年度目標値		現状値		
		①年間計画(スケジュール・工程)		②実施内容・実績・成果		
主な 取 組 内 容	4月			未実施		
	5月	①農産物の他地域への販路拡大 ②海外販路への拡大		①③西洋野菜のサンプル提供(都内) ①町内産パイナップル、バナナの販売について振興事務所と打ち合わせ		
	6月	③町内循環型経済の促進		①③西洋野菜研究会の打合せ実施(飲食店との意見交換) ①町内産パイナップル、バナナの販売について百貨店と打ち合わせ ①さつまいも、しょうが、にんじんの生産拡大推進会議実施		
	7月	①農産物の他地域への販路拡大		①西洋野菜のサンプル提供(都内) ①町内産パイナップル、バナナの百貨店でのプレゼンテーション		
	8月	②海外販路への拡大 ③町内循環型経済の促進		①西洋野菜のサンプル提供(町内) ①町内産パイナップル、バナナの販売開始		
	9月			①町内産パイナップル、バナナの販路開拓 ③飲食店との意見交換		
	10月			①都内レストランへの販売打ち合わせ ②いちご輸出打ち合わせ ③野菜ボックス販売打ち合わせ		
	11月	①農産物の他地域への販路拡大 ②海外販路への拡大 ③町内循環型経済の促進		①都内飲食店マルシェへの野菜発送 ①豊洲市場へのマイクロマトの発送 ②いちご輸出打ち合わせ ③野菜ボックス販売 4店舗		
	12月			①都内飲食店マルシェへの野菜発送 ①豊洲市場へのマイクロマトの発送 ①大林寺良もん市で野菜の販売 ②いちご輸出打ち合わせ ③野菜ボックス販売 5店舗		
	1月	①農産物の他地域への販路拡大		①豊洲市場への需要調査 ①野菜ボックス販売5店舗 ②いちご輸出打合せ、輸出開始		
	2月	②海外販路への拡大		②いちごの輸出(マレーシア、シンガポール、香港、カンボジア)		
	3月	③町内循環型経済の促進		①株ホウライとの打ち合わせ ①東京アメリカンクラブ視察 ①とちぎ農業ネットワーク企業組合との打合せ ②いちごの輸出(マレーシア、シンガポール、香港、カンボジア)		

シート2【 四半期検証シート 】

	<p style="text-align: center;">③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等</p>
<p style="text-align: center;">第1 四半期</p>	<p>①西洋野菜のサンプルを都内レストラン及び卸業者に提供し、ニーズを調査した。西洋野菜についてのニーズはあるが、「益子の西洋野菜」というブランディングが必要だという指摘があった。今年度は、ブランディングの基礎となる地域資源の調査を行っていく予定である。 町内産バナナ、パイナップルの販路拡大について振興事務所と打ち合わせを実施、百貨店での販売について検討した 益子町の露地野菜拡大推進会議を実施し、さつまいも、人参、しょうがの生産農家が一堂に会し、生産技術や販路などの情報交換を行った。生産農家のコミュニケーションを図ることにより、栽培技術の向上につなげていきたい。また機械の共同利用や、作業委託など町内で連携を図ることにより生産性を高めていきたい。</p> <p>③飲食店へのアンケート結果から、流通の関係では町外産の農産物を利用している現状を把握することができた。 アンケート結果をもとに西洋野菜研究会と飲食店及び道の駅で、飲食店が町内産農産物を購入しやすくなるようなしくみについて意見交換を行った。</p>
<p style="text-align: center;">第2 四半期</p>	<p>①サンプルを配布した都内のレストランから野菜の購入の相談があった。10月に実施する都内からのシェフを招いた試食会に招待し、商談を実施予定。 町内産パイナップル、バナナの生産者とともに百貨店へプレゼンテーションを実施し、販売開始となった。今年度は生産、販売、出荷の流れを定着させることを目的とし、来年度の本格的な販売に向けて安定的な生産と質の向上に向けて取り組むよう支援する。</p> <p>③飲食店との意見交換の中で、飲食店から提案のあった西洋野菜のボックス販売について来月検討していく。</p>
<p style="text-align: center;">第3 四半期</p>	<p>①墨田区のレストランで実施している月1回のマルシェに西洋野菜、及び加工品を発送。少量ではあるが都内での益子の野菜のPR効果を狙って継続し、将来的には益子の野菜のオンライン販売等に誘導できるよう展開していきたい。また豊洲へのマイクロトマトの試験出荷を通して市場の需要について情報を得る良い機会となっている。今後もビジネスチャンスとなるような機会を狙い、継続的に交流を図っていきたい。②いちごの輸出については、各関係機関と輸出業者、農家が連携し包装資材の新たな導入を検討してきた。より高価な商品づくりにより、富裕層を取り込み売上げアップを目指す。③町内飲食店へ野菜ボックスの販売を試験的に実施した。飲食店からは好評で益子の西洋野菜を使った新メニューが開発され活性化につながっている。飲食店からは継続の要望がある中で、農家側の課題を整理して農と食のまちづくりを実現するために今後も継続していきたい。</p>
<p style="text-align: center;">総括 (第4 四半期 含)</p>	<p>①生産者と豊洲市場への需要調査を実施した。現在、市場でニーズの高い農産物の特徴がわかり、成果の多い調査であった。また市場関係者と接点を持つことにより、今後の取引がより活発なものになると期待できる。3月には、千本松牧場を運営する「(株)ホウライ」との取引に関する打ち合わせや、東京アメリカンクラブの取引を前提とした視察、県内の有名ホテルとの仲介を行っている「とちぎ農業ネットワーク企業組合」との打ち合わせがあった。取引で課題となっているのが、各取引先からの受注や各農家への発注、精算業務のシステムの構築である。各生産者が毎日出荷に行く「道の駅ましこ」がハブとなるのが最も現実的であることから、今後は道の駅ましこと連携して農産物の他地域への販路拡大を進めていきたい。またコロナ禍の中で、デジタルマーケティングの需要が高まっていることから、道の駅ましこのオンラインシステムの「サブスクリプション」へのシステム移行についても支援を行って、巣ごもり需要を狙った販売戦略を立てていきたい。</p> <p>②いちごの輸出については、町内の生産者2名と小山市の生産者1名で220箱の輸出実績となった。今年度は輸出業者といちごの品質や規格、資材等の調整を行ってきたが、輸出コストを抑えることが今後の課題となるため、関係機関と連携し課題解決に取り組んでいきたい。</p>

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての次年度以降への方針・改善点
<p>総括</p>	<p>①継続性について このまま継続2人 改善・見直し 廃止・終了</p> <p>②意見・提言 ・なし。</p> <p>・関係機関と連帯し、販売経路の多様化を進め、町内循環型経済を促進し、農業生産額をアップして下さい。</p>	<p>令和4年度も新たな販路の開拓を積極的に進めるとともに、学校給食をはじめ町内での消費が増加するよう、関係機関と連携を図っていきたい。</p>

第3期ましこ未来計画推進シート

R3(2021)

シート1【 計画・実施状況シート 】

		課局名	観光商工課			
基礎目標	2 風土に根ざした産業をつくる	政策	観光の基幹産業化			
施策	観光基盤の整備	進捗状況	100%			
関連する優先目標	—	関連するSDGs	—			
KPI	観光客入込数	本年度目標値	200	現状値	186	万人
KPI	観光客宿泊者数	本年度目標値	30,000	現状値	26,424	人
KPI		本年度目標値		現状値		
		①年間計画(スケジュール・工程)	②実施内容・実績・成果			
主な取組内容	4月	① 益子×セントアイヴス100年祭事業 ① インバウンド誘客事業	① 実行委員との打合せや委託事業者とチラシ作成を行う ① 「near by tokyo」サイトでの英語圏への益子町の情報発信 ① 宿泊52人 ギャラリー73人 ② 町内旅行事業者との事業計画の共有のための打合せを行う			
	5月	① ましこ悠和館宿泊、ギャラリー運営事業 ② サイクルツアー造成事業(DMO)	① 委託事業者とWEBサイトの作成を行う ① 「near by tokyo」サイトでの英語圏への益子町の情報発信 ① 宿泊76人 ギャラリー19人 ② 町内旅行事業者と具体的なツアー内容についての打合せを行う			
	6月	③ 多言語化パンフレット等の作成	① 6/11 オープニング ① 「near by tokyo」サイトでの英語圏への益子町の情報発信 ① 宿泊38人 ギャラリー17人 ② 町内旅行事業者と予算等について打合せを行う			
	7月		① 限定ツアー(7/15) 料理教室(7/22, 29) 催行 ① 「near by tokyo」サイトでの英語圏への益子町の情報発信 ① 宿泊78人 ギャラリー4人 ② 「歴史・文化」「自然」「工芸・美術」の3つをテーマにサイクルツアーを含めた旅行商品の造成を町内旅行業者と行う。			
	8月	① 益子×セントアイヴス100年祭事業 ① インバウンド誘客事業 ① 益子まるごとクーポン事業 ① ましこ悠和館宿泊、ギャラリー運営事業 ② サイクルツアー造成事業(DMO)	① 受け入れ態勢を整えるための事業を事業者と打合せをし、「陶芸体験を英語で解説する」DVDを作成し、町内の事業者及びサイトで公開することとした。 ① 益子まるごとクーポン事業の打合せを行う。クーポンの金額や対象者、事業期間、事業範囲等の打合せを行う。 ① 宿泊80人 ギャラリー15人 ② サイクルツアーとして、「板橋林道」を中心としたアクティブなコースと、自転車での散歩というフランス語のボタリングツアーの2コースの設定を行う。地元関係者と詳細なコースやスケジュールの打合せを行う。			
	9月	③ 多言語化パンフレット等の作成	① 緊急事態宣言を受け、会期最終日の「ましこ市」を11/27, 28日に延期する。その他の事業は終了。 ① 「near by tokyo」サイトでの英語圏への益子町の情報発信 ① 益子まるごとクーポン事業の打合せを行う。クーポンの金額や対象者、事業期間、事業範囲等を決定する。 ① 宿泊42人 ギャラリー22人 ② コースとスケジュールを決定し、サイクルツアーの試走を行う。			
	10月		①-2 10/29 深澤直人氏と「英国事業」について打合せを行う。 ①-3 事業期間を11/8～1/31とし、チラシの印刷・配布を行う。 ①-4 宿泊69人 ギャラリー35人 ② 催行日をボタリングツアー11/13、グリーンサイクルツアー11/14に決定し、募集を開始する。			
	11月	①-1 益子×セントアイヴス100年祭事業 ①-2 インバウンド誘客事業 ①-3 益子まるごとクーポン事業(観光協会) ①-4 ましこ悠和館宿泊、ギャラリー運営事業	①-1 11/2 出店者説明会開催。11/27, 28催行。 ①-2 英語での陶芸体験解説DVD制作の打合せを請負事業者と行い、町内陶芸体験事業者の意見交換会(12/2)を開催することとした。 ①-3 11/8事業開始。11/25でインターネット予約分76.9%、電話分53.8%、計66.3%の行使率となる。 ①-4 宿泊103人 ギャラリー16人 ② ボタリングツアー11/13は参加者がいなかったため催行できず。アクティブツアー11/14は8名参加で催行。			
	12月	② サイクルツーリズム事業、ツアー造成事業(DMO) ③ 多言語化パンフレット等の作成	①-2 12/2 町内陶芸体験事業者の打合せを行い、DVDに盛り込む内容や今後のインバウンド誘客事業に望むことなど意見交換した。 ①-3 12/9時点でインターネット予約分が規定数に達したので新規予約を打ち切り、電話のみの受付に切り替えた。 ① 宿泊72人 ギャラリー13人 ② 県東地域サイクルツーリズムでの試走会(11/29)を基にサイクリングコース選定のために県土木事務所と打合せを行う(建設課同席)。			
	1月	①-1 益子×セントアイヴス100年祭事業 ①-2 インバウンド誘客事業	①-2 1/12 陶芸体験解説DVD撮影。町内事業者にも案内し、撮影時に同席いただいた。 1/18 深沢事業オンラインMTG。展示会場等の検討。 ①-4 宿泊66人 ギャラリー11人 悠和館ギャラリー 1/14 益子小学校見学人 1/25 益子西小コロナ禍により中止			
	2月	①-3 益子まるごとクーポン事業(観光協会) ①-4 ましこ悠和館宿泊、ギャラリー運営事業	①-2 2/10 陶芸体験解説DVD制作完了。 ①-2 2/28 深沢事業オンラインMTG。現状報告。実施時期の再検討。 ①-4 宿泊53人 ギャラリー14人			
	3月	② サイクルツーリズム事業、ツアー造成事業(DMO) ③ 多言語化パンフレット等の作成	①-1 3/16 実行委員会開催し、事業総括報告。来場者数延べ15,879人 ①-3 3/8 実行委員会開催し、事業総括報告。クーポン行使件数1,576/1,600件(98.5%) ①-4 宿泊86人 ギャラリー36人			

シート2【 四半期検証シート 】

	<p style="text-align: center;">③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等</p>
<p style="text-align: center;">第1 四半期</p>	<p>①100年祭事業については、委託事業者とチラシ作成やWEBサイト作成を行い、6/11にオープニングを迎えた。今後も9/12までコロナウイルスの状況を鑑みながら事業を実施していく。 ①「near by tokyo」サイト上で情報発信を行っているが、今年度充実させる項目について次期以降打合せが必要 ①緊急事態宣言の影響等もあり宿泊数が減少しているため、次期以降アフターコロナに向けて宿泊数の底上げを図る施策を行う必要がある ②サイクルツアー造成事業については、土祭事業の中でコア期間の実施に向け、町関係者と連携していく。次期以降は9月にオンラインでのプレツアーを行うための調整、準備を行っていく。また、ツアー造成に係る初期費用を補うために県補助金の申請を検討する。 ③必要に応じて多言語化パンフレット等の作成を行っていく</p>
<p style="text-align: center;">第2 四半期</p>	<p>①8月末からの緊急事態宣言により、9/11、12開催予定のましこ市を延期したが、その他の事業については会期を持って終了とした。11/27、28に延期したましこ市についても開催予定の状況に応じて、対策を取りながら開催していく。 ①「near by tokyo」サイト上では益子焼関係のコンテンツが人気であったため、アフターコロナに向けての受け入れ態勢の強化のために、「陶芸体験を英語で解説する」DVDを作成することとした。これにより情報発信のみならず、英語が話せない事業者での陶芸体験を可能となるよう進めていく。 ①減少した観光客対策のため、宿泊を前提に宿泊料金の値引、町内の飲食・土産店及び体験施設で使用できるクーポンを発行する「益子まるごとクーポン」事業の打合せを行った。しかしながら緊急事態宣言などの影響もあり、県の「一家族一旅行」事業と事業期間を擦り合わせながら行っていく。 ②土祭のメイン期間にサイクルツアーとして「グリーンサイクルツアー」「ポタリングツアー」の2ツアーを1回ずつ開催することとし、町内旅行会社や観光協会、関連団体とともに準備を進めていく。10月募集開始、11月催行となるため、コロナの状況を見ながら事業を進めていく。 ③必要に応じて多言語化パンフレット等の作成を行っていく。</p>
<p style="text-align: center;">第3 四半期</p>	<p>①-1 ましこ市を開催し予想を上回る入場者数があった(27日1924人、28日1817人、計3741人)。また、今回会場が2箇所(メッセ、参考館)に分かれていたため、一方の会場で受付・検温をした人にリストバンドを配布し、他方への入場や再入場をスムーズに行えるよう実施したところ、混乱や渋滞による密状態になることが回避され、有用性があることが確認できた。また、今まで入場者数の正確な把握が行えていなかったが、リストバンドを一人一人配布したことにより延べ人数ではなく、実人数の把握が行えた。次回開催予定の陶器市等での感染対策の選択肢の一つとなることが確認できた。 ①-2 町内陶芸体験事業者の意見交換会を行い、事業者ならではの意見を聞くことができ、映像に反映することとした。撮影は1/12に決定し、事業者も自由に見学できるものとする。 また、BOTE&SUTTOをデザインした深澤直人氏と英国デザイナーに、各々の国で陶器作品を制作し展示を行う「英国事業」の打合せを10/29深澤事務所にて行い、英国デザイナーへの町からの依頼や予算等についての打合せを行った。 ①-3 緊急事態宣言が解除され感染者数も減少していたこと、県外からの旅行者に対する割引制度が全国的にも少なかったことなどにより、1か月間でインターネットでの販売は終了した(1600セットのうち1100セット)。町内事業者からの反応も多く寄せられており、経済対策の一助となったと感じている。電話受付分は若干数残っているが、1月末の事業終了後、旅行者、事業者双方にアンケートをとる予定であり、取りまとめのうえ事業検証を行う。 ①-4 前述のまるごとクーポンの影響もあり、11月の宿泊数は上昇し、稼働率も50%に迫る数値であった。しかしながら12月には再び減少しており、ギャラリ入場者数も低調であり、コロナによる影響が考えられる。 ②「グリーンサイクルツアー」「ポタリングツアー」の2つのサイクルツアーを開催する予定であったが、ポタリングツアーは周知期間が取れなかったこともあり、開催には至らなかった。開催したグリーンツアーでは、日帰りで8000円という高額なツアーであったにもかかわらず、8名全員から満足との回答をいただき、自転車でのツアーの可能性を感じることができた。また、今回萩原観光やカフェましこびとの協力もあり実施にいたることができたが、今後は実施者としてツアーを主催してくれる可能性も感じることもできた。 ③多言語化パンフレットについては、2月開催予定のWEB陶器市で台湾向けに販売・発送することとなったため、台湾向けの繁体のパンフレット制作を次期以降行う。</p>
<p style="text-align: center;">総括 (第4 四半期 含)</p>	<p>①-1 3/16に実行委員会を開催し、事業総括報告を行った。全13事業を行い、来場者数は延べ15,879人となった。 ①-2 2/10に陶芸体験解説DVD制作完了し、near by tokyoのサイトにアップしたほか、DVDを町内事業所に配布し、利用方法等について共有しており、今後の誘客に繋げるための足掛かりとなると見込んでいる。 ①-2 深澤事業については、オンラインMTGを何度か重ねているが、先方の事務所でコロナ感染者が発生し、全業務がストップするなどあり、デザイン業務などが思うように進んでいない。今後、スケジュールを調整する必要がある。 ①-3 ましこまるごとクーポン事業については宿泊の行使率こそ98.5%と高かったが、体験クーポンの行使率は40.0%、買物、飲食クーポンは92.8%となっていた。時期以降は体験クーポンの行使率の低さをどうカバーするか検討する必要がある。 ①-4 前述のまるごとクーポンの影響もあり、前四半期は宿泊数は上昇したが、今四半期は冬季期間ということもあり、低調に終わった。次期以降も引き続き集客に注力する必要がある。</p>

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての次年度以降への方針・改善点
<p>総括</p>	<p>①継続性について このまま継続2人 改善・見直し 廃止・終了</p> <p>②意見・提言 ・なし。</p> <p>・今年度はコロナ禍の為、観光客が減少したが、日本遺産「かさましこ」ブランドを有効に使用し、あらゆる施策を行い観光客を増やして下さい。</p>	<p>かさましこブランドを有効活用した施策を展開できるよう、町生涯学習課をはじめ、笠間市ともさらに連携を図りたい。また、まるごとクーポン事業やインバウンド誘客事業等についても、引き続き積極的に取り組み、観光誘客につなげる。</p>

第3期ましま未来計画推進シート

R3(2021)

シート1【 計画・実施状況シート 】

		課局名	観光商工課			
基礎目標	2 風土に根ざした産業をつくる	政策	観光の基幹産業化			
施策	DMOを核とした観光地域づくり	進捗状況	100%			
関連する優先目標	3「仕事のあるまち」	関連するSDGs	—			
KPI	町外のmashipoカード会員数(町外の顧客)	本年度目標値	7,800	現状値	8,372	人
KPI	ツアー参加者数(累計)	本年度目標値	120	現状値	8	人
KPI		本年度目標値		現状値		
		①年間計画(スケジュール・工程)	②実施内容・実績・成果			
主な取組内容	4月	①観光振興事業(DMO)	①町内旅行事業者との事業計画の共有のための打合せを行う ⑤雨巻山の管理を行っていただいているいくべ会より、山頂付近の展望台近辺の立ち木の伐採について相談を受ける。後日日光森林管理所とともに現地の確認を行う。			
	5月	①ツアー造成事業(DMO) ②ラーニングパッケージン事業	①町内旅行事業者と具体的なツアー内容についての打合せを行う ②5/14「受け継ごう益子の手仕事2021」申請受付。8、10、11、1月実施予定。			
	6月	⑤雨巻山登山整備事業	①観光協会との事務レベルでの打合せを行い、今後の事業整理に向けて定期的に打合せを行っていくことを確認する ①町内旅行事業者と予算等について打合せを行う ⑤森林管理所より立ち木については、R5年度までに剪定を行うとの連絡あり			
	7月	①観光振興事業(DMO)	①観光協会との事務レベルでの打合せを行い、今後の事業整理に向けた手始めとして、観光協会の広報委員会に出席し、観光パンフレットの内容・用途の重複を省いていく。 ①「歴史・文化」「自然」「工芸・美術」の3つをテーマに旅行商品の造成を町内旅行業者と行う。			
	8月	①ツアー造成事業(DMO) ②ラーニングパッケージン事業	①サイクルツアー以外では「歴史バスツアー」「食バスツアー」ツアーに絞り込む。 ②緊急事態宣言を受け「受け継ごう益子の手仕事2021」について、8月の実施を見送り、10/24、11/28、1/23にそれぞれ実施を予定する			
	9月	⑤雨巻山登山整備事業	①観光協会の広報委員会に出席し、観光案内地図については、協会会員を除く店舗も掲載することを前提に、観光協会で作成する方向となった。 ⑤雨巻山登山道を含む登山ルートを走る「トラン」の開催が10月に地元事業者を中心に行われることとなった。			
	10月	①-1 観光振興事業 ①-2 ツアー造成事業(DMO) ② ラーニングパッケージン事業	①-2 催行日を歴史バスツアー10/23、食バスツアー11/13に決定し募集を開始するが、歴史バスツアーは参加者がいなかったため催行できず。 ② 10/24に麦わら細工体験を実施し8名が参加した。 ③ 10/19 日本遺産活用事業である「かさまし観光協議会事業」のガイドコーディネーター育成講習会・ストーリーブック制作・プロモーション動画制作について、JTBとの打合せに同席 ④ 10/10小宅小学校から安善寺までの風景観察ツアー 参加者28名 ④ 10/17円道寺池周辺の風景観察ツアー 参加者15名 ④ 10/23前沢町有林周辺の風景観察ツアー 参加者46名 ④ 10/21益子産野菜・お米の学校給食提供 1,895食			
	11月	③ かさまし観光協議会事業(生涯学習課) ④ グリーンツーリズム推進 ⑤ 雨巻山登山整備事業	①-1 11/18台湾旅行社商談会に出席。旅行会社4社に対しプレゼンを行った(DMO、観光協会) ①-2 食バスツアー11/13は参加者がいなかったため催行できず。 ② 11/28に綿摘み・種きり・糸紡ぎ体験を実施し5名が参加した。 ⑤ 11/27建設課主催のランドスケープ事業の大羽地区住民説明会に同席。主に雨巻山の駐車場整備について意見交換を行った。			
	12月	⑤ 雨巻山登山整備事業	①-1 12/9客船「飛鳥II」オプションツアー誘致事業で足利銀行総合研究所と打合せを行う(農政課同席)。 ③ 12/15「日本遺産を活用したラーニングパッケージンセミナー」に出席(笠間市)。 ④ 12/18小麦プロジェクト「益子を味わう」芽キャベツ収穫体験・益子産小麦を使ったピザづくり体験 参加者10名 ④ 12/18地ビールプロジェクト「ビールテイストン大会」参加者6名			
	1月	①-1 観光振興事業 ①-2 ツアー造成事業(DMO)	①-1 1/15、16ソラマチとちまるショップにて誘客イベント開催予定もコロナ感染拡大に伴い参加辞退。 ③ 1/14日本遺産活性化協議会開催。 ⑤1/21、24雨巻山マップ検討会開催(いくべ会 三登谷会)			
	2月	② ラーニングパッケージン事業 ③ かさまし観光協議会事業(生涯学習課)	①-1 2/10客船「飛鳥II」オプションツアー誘致事業で、アンカーシップマネジメントと郵船クルーズにプレゼンを行う 2/17 阪急交通社と観光庁「看板商品の創出事業補助金」事業について打合せを行う ⑤2/22雨巻山マップ検討会開催(いくべ会 三登谷会)			
	3月	④ グリーンツーリズム推進 ⑤ 雨巻山登山整備事業	①-1 3/10デジタルプレミアム商品券事業「まちのわ」とオンラインミーティングを行った。 ② 3/27 糸紡ぎミサンガづくり 参加者9名 ⑤ 3/14 雨巻山マップ検討会開催(いくべ会 三登谷会) 親水公園登山口への誘導のため、看板設置を行う。			

シート2【 四半期検証シート 】

	<p style="text-align: center;">③担当課による点検・検証および 次期四半期(第4四半期は次年度)以降の改善点等</p>
<p style="text-align: center;">第1 四半期</p>	<p>①次期以降についても、益子全体の事業整理として観光協会を始めとする各種団体との打ち合わせを進めていく。</p> <p>①ツアー造成事業については、着地型のバスを中心としたツアー造成事業であり、サイクルツアー造成事業と合わせて、次期以降も町関係者と連携しオンラインツアーの準備、県補助金の申請を検討する。</p> <p>②ラーニングパッケージン事業については、今後のコロナの影響を見据えながら、次期以降も募集を継続していく。</p> <p>⑤雨巻山登山についてはコロナ禍において需要が増えており、アフターコロナにおいても継続して訪れてもらえるよう整備を進めていく。次期以降に町内の飲食の一覧を作成し、下山後に訪れていただくよう図っていく。</p>
<p style="text-align: center;">第2 四半期</p>	<p>①事業整理の手始めとして、観光パンフレットの重複を省いていくこととした。しかしながら、観光協会は会員に有利な情報の掲載が前提なので、今後も密に調整を行う必要がある。</p> <p>①土祭のメイン期間に「歴史バスツアー」「食バスツアー」「グリーンサイクルツアー」「ボタリングツアー」の4ツアーを1回ずつ開催することとし、町内旅行会社や観光協会、関連団体とともに準備を進めていく。10月募集開始、11月開催(歴史ツアーのみ10/23)となるため、コロナの状況を見ながら事業を進めていく。</p> <p>②ラーニングパッケージン事業については、今後のコロナの影響を見据えながら、次期以降も募集を継続していく。</p> <p>⑤雨巻山登山についてはコロナ禍において需要が増えており、アフターコロナにおいても継続して訪れてもらえるよう整備を進めていく。10/3に「かさましこTRAIL2021」の開催が決定した(カフェましこびと主催)。今後も登山以外の雨巻山の活用を進めていく。</p>
<p style="text-align: center;">第3 四半期</p>	<p>①-1 台湾旅行社プレゼン(DMO、観光協会)と飛鳥Ⅱ誘致事業の打合せを行った。飛鳥Ⅱ事業では、高所得者層向けにインシなどのジビエ料理や地元食材やシオマスの紹介、人間国宝の孫によるろくろ指導などの独自のツアーコンテンツ紹介資料を作成し、足銀総研にプレゼン(12/17)を依頼した。今後、先方(郵船クルーズ)が気に入っていただければ、実際に益子町に視察に来る予定。</p> <p>①-2 土祭のメイン期間に開催予定であった「歴史バスツアー」「食バスツアー」「グリーンサイクルツアー」「ボタリングツアー」の4ツアーのうち3ツアーは参加者がいなかったため催行できなかった。今回は初めての試みということもあり、広報先がわからなかった部分はあると思うが課題の残る結果となった。今後は様々なデータ蓄積により、ツアーに適した広報先の把握に務め、参加者増を目指す。</p> <p>② ラーニングパッケージン事業については、8名、5名の参加となった(定員は各8名)。一年通して4回開催の事業で、関連性のあるものなのでリピーターではぼ埋まってしまうため、今後は新規参加者開拓が課題となる。</p> <p>④-1 ランドスケープ計画をベースとして、3地区の風景観察ツアーを開催。芝浦工大の小嶋先生と学生が中心となり、日ごろ景観整備を行っている「益子花の会」や「里山の会」のほか地元協力者と共に、山林の遊歩道周辺の風景観察ナビゲートを行った。今後、本企画を自走継続していくにあたっては、地元協力者との協議を進めていく必要がある。</p> <p>④-2 農業体験企画として、小麦プロジェクト・地ビールプロジェクト・益子産野菜の学校給食プロジェクトを実施。実施主体は「ましこカンパニー」が行ったことにより、生産者との繋がり、加工施設の完備、販売ルートの確保という面で、継続していける体制は整っている。今後においても、観光農業体験企画の拡充を図っていければと考える。</p> <p>⑤ ランドスケープ事業については、主に雨巻山駐車場の整備について建設課で説明し、意見交換を行ったが、地元からは駐車場整備した場合、観光客が増えるのはいいが道路整備についてはどうなるかという意見が多かった。今後は建設課と連携をとりながら、他の登山口への分散誘導も行う必要がある。</p>
<p style="text-align: center;">総括 (第4 四半期 含)</p>	<p>①-1 ソラマチとちまるショップでの誘客イベントはコロナ禍により参加辞退した。今後は春の陶器市のお知らせをとちまるショップにて行っていく(4/23, 24予定)</p> <p>飛鳥Ⅱ事業では、先方事業者に対してプレゼンを行い、概ね良好な感触を得た。今後は常陸那珂港に寄港するツアー造成の際には、旅行先の候補として挙げていただける可能性がある。</p> <p>観光庁「看板商品の創出事業補助金」事業については、今後事業者を含め造成を検討していく。申請はDMO法人ましこラボ。</p> <p>② ラーニングパッケージン事業については、9名の参加となった(定員は8名)。一年通して4回開催の事業で、関連性のあるものなのでリピーターではぼ埋まってしまうため、今後は新規参加者開拓が課題となる。</p> <p>⑤ 親水公園登山口への分散誘導を行うため、誘導看板設置を行った。また、マップについては、管理をいただいているいっぺ会や三登谷会の意見を集約し、登山者が見やすいようにするために、デザイナーを入れてマップの校正を行っており、登山客の高評価に繋がると考えられる。</p>

シート3【 外部検証委員会・議会からの意見・提言シート 】

	④外部検証委員会の意見・提言	⑤外部検証委員会・議会の意見・提言を受けての次年度以降への方針・改善点
<p>総括</p>	<p>①継続性について このまま継続2人 改善・見直し 廃止・終了</p> <p>②意見・提言 ・なし。</p> <p>・DMOと連帯し観光振興事業・ツアー造成事業を積極的に進め、観光客の誘致を推進して下さい。</p>	<p>コロナウイルス感染症の影響により、落ち込んだ観光客入込数を回復させるべく、DMOを中心として、関係団体間で連携しながら、観光誘客につながる事業を検討していく。</p>